

工学部建築学科かおりデザイン専攻 学士課程教育プログラム

1. 学科の目的

工学部建築学科は、建築および都市環境の創造、生産、維持活動に関する知識と技術を有し、豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、建築・インテリアおよび土木・環境分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

2. 教育の目的と学位授与の方針

本学の教育は大きく分けると「教養力」と「専門力」の育成に分類され、それぞれ次のような教育の目的と学位授与の方針となっています。

2.1 教育の目的

教養力の育成とは、本学在学中はもとより、社会人として活動するために必要な基礎力の鍛錬と人格を含めた自己形成がその主な内容となります。命の大切さを知り、われわれを取り巻く社会や自然、さまざまな文化活動について、幅広い学問領域の学識の一端に触れることで課題を発見し、主体的に考え、必要に応じて自ら行動できる人間力の豊かな人物を養成します。仲間とコミュニケーションをはかり、協働し合い、自分で自分を磨き上げる苦労と喜びへと促します。

専門力の育成とは、環境の健康と快適性に密接に関係する「におい・かおり」について基礎知識を身に付け、「におい・かおり」の視点から安全で快適な生活環境をデザインできる力を修得することです。

心豊かな生活を営むためには、心と身体が健全であることが不可欠です。そのためには、私たちを取り巻く生活環境も安全かつ快適でなければなりません。「におい」という言葉を聞くと、悪臭が連想され、悪いイメージを抱く人が多いと思いますが、古くは色の際立ちや美しい様を言う言葉として使用されていました。かおりデザイン専攻では、「におい」が元来持っていた意味を大切に、生活環境の質を高め、生活を彩る要素としての「におい・かおり」の基礎知識を身に付け、建築における「におい・かおり」の持つ役割について学びます。「におい・かおり」を制御・有効活用し、安全で快適な生活環境がデザインできる力の修得を目標としています。そのために、生活を支える建築、住まい、食、生活環境について学び、ヒトの心と身体の健康、ヒトと食、生活で使用する機器、住まいや街との関係を学びます。具体的には、次の通りです。

1. 快適な生活環境を創造するための環境要素について知識を修得する。
2. におい・かおりについて、嗅覚の仕組み、においの測定・評価方法、においの除去方法、かおりの活用などについての知識を修得する。
3. においの測定・評価、成分の分析が行える技術を修得する。
4. 香料の特性を理解し、適切な香りの調香が行える技術を修得する。
5. 生理・心理学の基礎的な知識を修得する。

2.2 学位授与の方針

(教養力)

1. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
2. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応するための素養を身につけることができる。
3. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。
4. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。
5. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。
6. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。

7. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。
8. 工学の基礎として数学、自然科学を活用することができる。

(専門力)

9. 嗅覚の特性に関する知識があり、基本的なにおい・かおりの測定・評価ができる。
10. におい・かおりの特性に関する知識があり、有効な臭気対策が提案できる。
11. におい・かおりの化学、香料の成分に関する知識があり、かおりの特性を踏まえた適切なかおりを調香できる。
12. におい・かおりの特性、人とかおりの関係に関する基礎知識があり、その時々で適切なかおりを選定し、活用方法を提案できる。
13. 生活環境要素に関する基礎知識があり、におい・かおりの要素を取り入れた快適な生活環境を創造できる。
14. 論点を的確に捉え、必要な調査・実験データ、情報を収集し、そのデータを理論的に分析し、課題を解決することができ、客観的なデータに基づく自らの考えを分かりやすく伝えることができる。

3. 標準教育プログラム

標準教育プログラムとは、本学で学ぶ皆さんが、上に示した教育の目的と学位授与の方針に到達するために4年間で身につけることが必要な知識や能力の骨格を「教養力」と「専門力」に分けて定めたもので、これは、本学の教育課程編成・実施の方針に基づき作成されています。建築学科かおりデザイン専攻の標準教育プログラムは、以下の(1)～(7)にあります。

(教養力)

(1) 社会人として活動するために必要な汎用的な能力を身に付ける

汎用的とは基礎的かつあらゆる活動への応用が効くベースとなるものを意味します。本学のカリキュラム体系は三つの群、すなわち人間科学科目群、専門基礎科目群、専門科目群に大別されます。その人間科学科目群Aグループにおいては、初年次教育、外国語の中でも英語の基礎的リテラシー、体育実技を通じて、主体的な学びの姿勢、コミュニケーション力と国際性、健康管理と生涯スポーツの意識を高めます。また英語の上級者や意欲あふれる学生は、資格取得等につながるハイレベルクラスでさらに磨きをかけてもらいます。

(2) 社会人として必要な文化、社会、自然の一般的知識と思考する力を身に付ける

人間科学科目群Bグループにおいては、講義系科目と演習系科目を連動的に開設しています。講義系科目には人文、社会、自然科学分野とこれらの複合領域に属する基本的な科目が用意されています。諸科学の基礎を学ぶことで、人間とこころ、歴史文化、国際情勢や社会の仕組み、科学的なものの見方、地球環境等に関して幅広い知見を身に付けてもらいます。ひいてはこうした経験が、多面的なものの見方や他者理解と同時に、節度と意欲を兼ね備えた主体的な自己の確立に大きく寄与することになるでしょう。

また少人数で実施する演習系科目では、履修者が自ら課題を設定し、その問題解決に向けて授業担当者の指導のもと行動を起してもらいます。深く探究し、語り合い、これが思考力の訓練となることはもちろんですが、この実践的体験から新たな興味がまた芽生え、以前は関心の薄かった講義系科目、演習系科目履修への新たな誘因となることが望ましいです。

(3) 工学の基礎としての数学、自然科学を活用する力を身に付けることができる

工学のさまざまな分野で、多くの自然科学の知識が用いられます。特に、力と動きの関係、熱や電気の性質を理解するために物理学、材料の特性と、自然環境を理解するために化学が必要となります。また工学の各分野、物理学、化学で用いられる数式を理解し、応用するために数学が必要となります。専門基礎科目群においては、これらの、工学系分野の基礎となる数学、物理学、化学を学びます。それぞれの専門分野において、既存の知識を身につけるだけでなく、創造的な仕事をする上でも、これらの基礎知識がしっかり身に付いていることが重要です。

(専門力)

(4) 生活環境の様々な環境要素の特性を理解し、快適な生活環境を創造できる力を取得する

生活環境の様々な環境要素を学び、におい・かおりとの関係について正しく理解し、快適な生活環境を創造するための必要要素の特性を考慮した上で、生活環境をデザインできる知識と技術を身に付けます。

(5) 生活環境のにおい・かおりの特性、臭気対策の基礎と嗅覚の仕組みに関する知識を修得する

生活環境に存在するにおい・かおり、人がにおいを感じる仕組みを正しく理解し、臭気対策、かおりの活用を提案するための基礎知識を身に付ける必要があります。そのために、生活環境のにおい・かおりの特性について学び、においに関する法律、嗅覚の仕組み、におい物質の特性を学びます。また、臭気対策を実行するために必要な消脱臭メカニズムの基礎と原理を学び、様々な消脱臭製品の性能を評価する方法を取得します。

(6) におい・かおりの測定・評価方法を取得する

空間において適切な臭気対策およびかおりの活用を提案するためには、どのようなにおい・かおりがどの程度発生しているのか、人がそのにおい・かおりをどのように感じるのかを正しく測定・評価する必要があります。そのため、においの測定法、においの成分分析、官能検査法を学習し、におい・かおりの測定・評価方法を身につけます。

(7) 生活環境におけるにおい・かおりと関係する人のこととからだに関する基礎を修得する

心理学の基礎からにおい・かおりと生理、心理の関係について学び、におい・かおりの生理、心理作用について知識を修得します。

4. 標準教育プログラムから見た教育課程の位置づけ

図-1は、上で説明した標準教育プログラムを実行するために必要な教育課程の構成概念図をまとめたものです。また、4年間の具体的な授業科目の単位数等については、開講科目一覧を参照して下さい。授業科目は、人間科学科目群、専門基礎科目群、および専門科目群の3群に分類されています。建築士の受験資格を得るために必要な科目は、関連科目、及び建築学科の開講科目を履修します。建築学科の開講科目は卒業に必要な単位には含まれません。

以下、それぞれの教育内容について説明します。



図-1 建築学科かおりデザイン専攻の教育課程概念図

4.1 人間科学科目群

(1)教育内容

a. 人間科学科目群 Aグループ

①ファースト・イヤー・ 세미나

ファースト・イヤー・ 세미나 (First Year Seminar, 略して FYS, 初年次 세미나) とは、新入生である皆さん方全員に、今後4年間の大学教育に不可欠な「学習技法 (スタディ・スキルズ)」を習得してもらう科目です。いわば「大学での学び方」を学ぶ授業科目です。

実は、皆さんが高校まで普通だと思ってきた勉強の仕方と、大学での学びの方法はずいぶん違うところがあるのです。この方法の違いを理解した上で、「大学での学び方」に早く習熟し、積極的に大学の授業に参加してほしいのです。この点はとても大切です。大学での授業に戸惑ったり、どうにも積極的に参加できなかつたり、せっかく勉学に打ち込んでもそれが空回りに終わって、4年たっても実を結ばない、こうしたことの原因の一半には、大学での学び方(つまり知的レベルをステップアップする方法)のベースができていないことが大きく関わっていることが分かっています。

この授業は次のように5つのパートでできています。

- I 大学で学ぶとはどういうことか
- II 効果的な授業の聴き方、効率的なノートのとり方、テキストの的確な読み方
- III 知的収蔵庫である大学図書館の利用法
- IV 文章の書き方の基本、レポート作成のルール、およびその実践
- V 効果的なプレゼンテーションのさまざまな方法とその実践

この授業の第一のねらいは、「大学での学び方」を習得してもらうことで、皆さんが本学の教育にスムーズに適応できること、言いかえると皆さんが手応えをもって大学生活を送ることができるよう手助けをすることにあります。しかしそれだけではありません。皆さんが社会に出、職業人として、あるいは市民として、豊かに生きていこうとするとき、自己表現スキルや、他者とのコミュニケーション・スキルの必要性をきつと感じることでしょう。それらを可能にするのも、この授業が基盤となります。そうした最低限の知的技法もここには盛り込まれています。

こうした事項について、少人数クラスで初歩からみっちり学んでもらいます。皆さんはこの授業において、何より自分の知的ステップアップを信じて、全力でこれに応えねばなりません。

② 外国語科目

外国語を学習することには2つの重要な事項があります。第1はコミュニケーションの手段としての言語能力の習得です。グローバル化の著しい今日においては外国語、特に英語によるコミュニケーション能力は21世紀を生きる上で不可欠となります。第2はその言語の背景にある文化や思考を学ぶことです。言語の背景にある文化やものの考え方を理解することなく言語を学ぶだけでは思わぬ誤解やトラブルに巻き込まれることにもなりかねません。技術者にとっても外国語の能力の習得はますます重要になってきています。

そのような外国語の学習には基礎的な事項の反復学習が大切になります。大変に思いかもしれませんが、外国語学習というのは努力をすればするほど成果も見込めるのです。本学では、1年次に「資格英語 1・2」と「英語スキル 1・2」、2年次には「英語スキル 3・4」を必修科目として開講しています。さらに、3年次でも外国語科目を学びたい人のために「実践英語 1・2(資格コース)」、「実践英語 1・2(スキルコース)」という選択科目を開講しています。

③ 健康科学演習

ヒトは外界の刺激と内的な意思活動により、身体運動を通して健康が維持増進されます。またヒトには本来運動欲求が存在します。この運動欲求は、乳児の半ば反射的な運動から青年期の意図的・自発的運動へと変化していきます。本学の健康科学の科目はこの運動欲求をより促進させるように考えられています。

健康科学演習は、1年次にA、Bを配当しています。これは、おもに個人の健康を促し、個人の運動能力の開発・維持・向上を目的とし、生涯スポーツとして運動を維持させる基盤を青年期のうちに身につけることを目的としています。

大学における健康科学演習は、週1回の実技で体力を向上させようとはしていません。なぜならば、週1回の運動では、トレーニング効果は期待できないからです。ではなぜ大学で体育実技が必要であるかといえ、この授業で学生諸君が将来(生涯スポーツとしても)運動を継続して行えるような素地を身につけることと、スポーツを通じて集団を意識し、社会集団に対する適応力を向上させるといった大きな目的を持っているからです。

④ 基礎英語 세미나

基礎英語セミナーでは、基本的な英単語を習得することと、習得した英単語を文脈のなかで正しく理解することを目標にします。一目ですぐに認識できる語彙を多量に獲得することは、英語を読んだり、書いたりするうえで大きな力となるだけでなく、英語を聞いたり、話したりするうえで不可欠な力となってきます。英語による学術的探求とコミュニケーションの礎になる力が、十分な練習を通して養成されることとなります。なお、3年次修了までにこの科目を修得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

b. 人間科学科目群 Bグループ

大同大学の教育課程(カリキュラム)は、三つの科目群に支えられています。一つはそれぞれの学科や専攻でおもに学ぶ専門科目群、あとの二つは専門基礎科目群とここで説明する人間科学科目群です。人間科学科目群は上記 FYS と語学や体育の実技を含む A グループと B グループから成り立っています。なかでも B グループには、人間、こころ、文学、歴史、文化、政治、経済、社会のしくみや国際情勢、さらには身の回りの自然環境から広くは宇宙それに自分たちの生命や健康問題に至るまで、実にさまざまなテーマを扱う授業科目が配置されています。

開講が予定されているこれらの講義系と演習系の科目はすべて、皆さんにできるだけ多様な刺激を知的にも身体的にも与える

ことができるように工夫されたものばかりです。そのねらいはというと、トータルな人間教育に他なりません。言い換えると、皆さんが今をタフに生き、将来を担う一市民としての教養に気づいていただき、それに磨きをかけてもらえるように、これが何を指しても本科目群の大目的です。大学での専門教育はもちろん重要です。しかしそれを世の中に役立てながらも、一人ひとりが社会の中で楽しく豊かな人生を創出していくためにはやはり「教養」が欠かせません。本学では「教養」として、とくに「コミュニケーション力」、「自ら考える力」と「協働力」に重点を置いています。こうした点で皆さんがますます自分らしさを発揮できるよう、B グループではさまざまな授業内容を取りそろえていますから、できるだけ偏りを作らず履修し、修得することが望まれます。

現在、私たちは 21 世紀初頭に身を置いています。日本でも世界でも、世の中は目まぐるしく変化し続けています。良いことも好ましくないことも瞬時に地球規模で拡散し、われわれはグローバル社会の一員であることを余儀なくされています。とくに日本は超高齢化社会に突入しており、不透明で不確実な時代の到来がそこかしこで言われています。それでも世界は飽くなきマネーフローと途轍もないテクノロジーの進化を介してさらに緊密に結びつくと同時に、かたやアメリカ南北大陸圏、アジア圏、欧州・アフリカ・中東圏でのちょっとした歪が、すぐにも世界各国に対して経済的にも政治的にも甚大な影響をもたらします。さらに今後は AI(人工知能)や IoT(モノのインターネット)に代表される技術革新によって人間の働き方が様変わりするばかりか、われわれの想像力のそのまた先を行くほどの近未来社会が待ち受けているようです。世界がより便利に、より快適な生活を享受できるようになることは好ましいですが、日本の社会を見ても逆に格差社会などが一部現実のものとなりつつあるのは見逃せません。

そこで皆さんに具体的に求められていくのは、こうした時代を生き抜いていくための知恵や活力を自ら引き出して伸ばしていくことです。そのためには今を知り、そこから課題を見つけ出し、いろいろな角度から考え、そして解決策を自分であるいは仲間と協働しながら探り当てていく知とパワーが不可欠です。そして何よりも一人ひとりが自分の人生を存分に味わい、楽しめる力を発揮することが求められます。

大学では、人間と社会をよく知るためにも、人文・社会科学の学問分野の知見や見識が大切な役割を果たします。人文科学分野では、日本文学、外国文学、哲学、歴史学、文化人類学、心理学が人間の営みや心の働きを扱い、社会科学分野では法学、経済学、政治学、社会学、社会調査の方法、現代社会論、リベラルアーツ特別講義が社会の仕組みから国際情勢の展望にまで皆さんを誘います。

また自然科学のアプローチから宇宙、地球、生命、身体そのものを知ることに加えて、われわれの生活環境や健康を見直す諸科目も開講されています。自然科学概論、環境科学、地球科学、認知科学、生物学、健康科学の諸科目が、有益性と危険性をあわせ持つ科学技術、人間が生きる舞台としての地球環境、またヒトとしての人間、人間の心身・健康に焦点を当てています。

2 年次、3 年次には、「リベラルアーツ実践演習」として、アクティブ・ラーニングや PBL(問題・課題解決型授業)を意識した少人数科目を開講しています。

大学での勉学は、確かに与えられたものを繰り返し習い覚える地道な作業と同時に、何が問題でその解決のためにはどう向き合えばよいかについて自分自身が考え始め、仲間と語り合い、行動をおこすところに楽しさの発見と醍醐味があります。

皆さんにとって、人間科学科目群 B グループがその糸口となることを願っています。

(2) 学修到達目標

人間科学科目群の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

4.2 専門基礎科目群・専門科目群

専門分野の基礎となる専門基礎科目群の授業科目は 1 年次から開講されます。専門分野である専門科目群の授業科目は、基幹科目、展開科目、卒業研究より構成され、1~4 年次に開講されます。「基幹科目」とは、専門科目の中でも根幹の核となる科目であり、専門知識を修得するときの土台となる科目です。また、「展開科目」とは、皆さんの興味や将来の進路に従って、希望する分野についてより高度な専門科目の学習ができるように設けた科目です。卒業研究は、4 年間の学習の集大成となる科目です。これらの科目について教育内容の概要を以下に説明します。なお、各授業科目で何を学んで、どんな知識を修得するかは、後述する「(3)学習到達目標」の別表に具体的にまとめています。各科目がどのように関連しているかは、カリキュラム・フローチャートに示しています。また、どの学期にどの科目を履修できるかは、履修モデルを見てください。

4. 2-1 専門基礎科目群の授業科目

専門基礎科目群において学習する教育内容および学習到達目標について説明します。図-2には、専門基礎科目群のカリキュラム・フローチャートが示してあります。

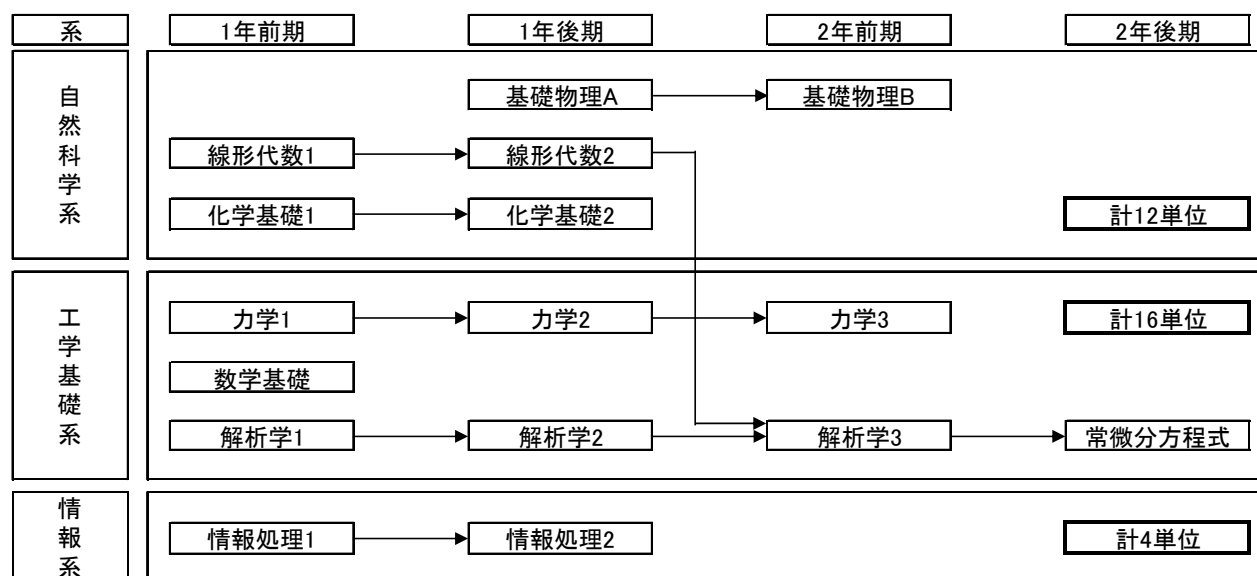


図-2 専門基礎科目群のフローチャート

(1) 自然科学系

① 教育内容

本学の学位授与の方針にあるように、豊かな教養を身につけ、豊かな創造力を身につけるためには、それぞれの専門分野にとらわれずに幅広い自然科学的なものの見方、考え方を修得することが大切です。そのために自然科学系の科目として、数学関係2科目、物理関係2科目、化学関係2科目が編成されています。それぞれの教育内容は、次のとおりです。

ア [数学関係科目](線形代数1, 線形代数2)

線形代数1と線形代数2では、2つのものの間に成り立つ関係のうち、もっともシンプルで多くのことの基礎となる「比例する」という関係を多くのものの間の関係に拡張した線形性と呼ばれる考え方について学びます。これを学ぶことにより、理工系のみならず経済学、社会学等の社会科学においても重要な、2つ以上のものの間に成り立つ関係をつかむ目が養われます。また線形性は平面や空間の幾何とも関係し、特に空間図形を把握する練習としても、線形代数の授業を活用してもらいたいと思います。

イ [物理関係科目](基礎物理A, 基礎物理B)

ここでは、高校の物理の復習から始めて、ベクトルと微分積分を使った大学の物理へ進みます。基礎物理Aでは、電磁気学の基礎事項を学びます。電荷を担う基礎的なものは電子などの粒子であること、電子の流れが電流であることなど、基本的な自然界の姿を学びます。さらに、電場(電界)や磁場(磁界)といった『場』という概念を学びます。基礎物理Bでは、熱力学の基礎を学びます。熱の微視的な理解、つまり物質の構成要素(原子や分子など)の熱振動のエネルギーとして熱が理解できることを学びます。さらに、熱や仕事などエネルギーの巨視的な理解、特に熱力学第一法則などを学びます。なお、電磁気学(基礎物理A)も熱力学(基礎物理B)も、力学の考え方を応用する場面が随所に出てきます。電磁気学や熱力学を学ぶ前に、力学を学んでおくことが必要です。

ウ [化学関係科目](化学基礎1, 化学基礎2)

工科系の学生にとって物質についての基礎知識は不可欠なものです。化学基礎1では物質の構成要素である原子、分子そのものについて学習します。化学基礎2では、それらが集団になったときに現れる性質、挙動が学習内容です。

② 学修到達目標

自然科学系科目の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

(2) 工学基礎系

① 教育内容

工学は応用科学であり、基礎科学である自然科学とは異なる学問分野ですが、工学の色々な部分においては、自然科学の基本原則がいたるところで使われています。したがって、本学の学位授与方針にあるように確かな専門性を身につけるために、皆さんは工学を学修する上で必要となる自然科学(特に、数学・物理・化学)の基礎学力を高めなければなりません。工学基礎系の科目は、これに応えることを目的として設けられています。工学基礎系の科目は、数学関係5科目、物理関係3科目で編成されています。それぞれの教育内容は、次の通りです。

ア [数学関係科目](**数学基礎**, **解析学1**, **解析学2**, **解析学3**, **常微分方程式**)

工学基礎系の数学では特に、近代科学技術文明の基礎とも言えるニュートン、ライプニッツに始まる微分積分学を、段階を追って学習していきます。変化の割合を表す微分法と、面積や体積を求める積分法とがどこでつながるのか。無限とか極限とかいふ言葉がよく出てくるが、どういう意味なのか。こういったことをしっかり考えて学習することにより、微分積分学の基本的な考え方が身につく、数式とその表すものとの関係がわかるようになります。さらに常微分方程式を学ぶと、変化の割合がみだす式より将来を予測することが出来るようになります。自然の中に存在する因果関係(何が原因で何が結果か)にも目が向かうようになるでしょう。

また高等学校までの数学教育の多様化に対応し、他の数学系科目および自然科学、工学系専門科目への準備となる科目として、数学基礎を開講しています。この科目の受講対象者は入学時に実施する学力試験の結果に基づいて決定され、受講対象者には1年前期に解析学1に先んじて、特に大学での専門教育に直結する基礎的な数学を精選して教授します。

イ [物理関係科目](**力学1**, **力学2**, **力学3**)

力学とは物体の運動を知ることが目的とする理論であり、その理論体系には自然科学と自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。物体の代表例は工業材料(歯車やクランクなどの機械部品、あるいは車や人工衛星、建築物などの製品)です。工業材料の静止状態を扱う科目の基礎事項も、そして工業材料が動く状態を扱う科目の基礎事項も、力学1, 2, 3という科目で扱います。力学1, 2, 3を通して、ベクトルと微分積分を使って力の合成・分解、運動方程式を解いて物体の運動を決定する手順、エネルギー保存則など力学の重要事項を学びます。特に大切なのは、『運動方程式は微分方程式であり、それを満たす解(関数)が運動を表す』という点です。その具体例として、放物運動、円運動、バネの力による単振動、摩擦がある場合の減衰振動、周期的な外力が働く場合の強制振動など、工業材料の動きを理解する上で重要な運動を扱います。さらに、振動の応用として理解できる波動の基礎事項も力学3で学びます。

② 学修到達目標

工学基礎系科目の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

(3) 情報系

① 教育内容

高度情報通信社会ということばやインターネットに代表されるように、近年の情報化の進展は著しく、21世紀の社会においては、一人ひとりが情報の発信・収集・活用・伝達を効率よく実践できる情報活用能力を身につけることが必要です。このような時代に乗り遅れないように、大学4年間における皆さんの情報活用能力の育成を目的として、専門基礎科目群の中で情報科目を設けています。

1年次に、電子メールやインターネット、基本ソフトウェアの操作といった基本的な情報の活用方法を体験し、情報処理の原理や仕組みを理解できるようになっています。また、プレゼンテーションの技法や様々な調査分析などに活用できる統計処理の手法について学びます。

② 学修到達目標

情報系科目の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

(4) 基礎数学セミナー・基礎理科セミナー

ア [数学関係科目](基礎数学セミナー)

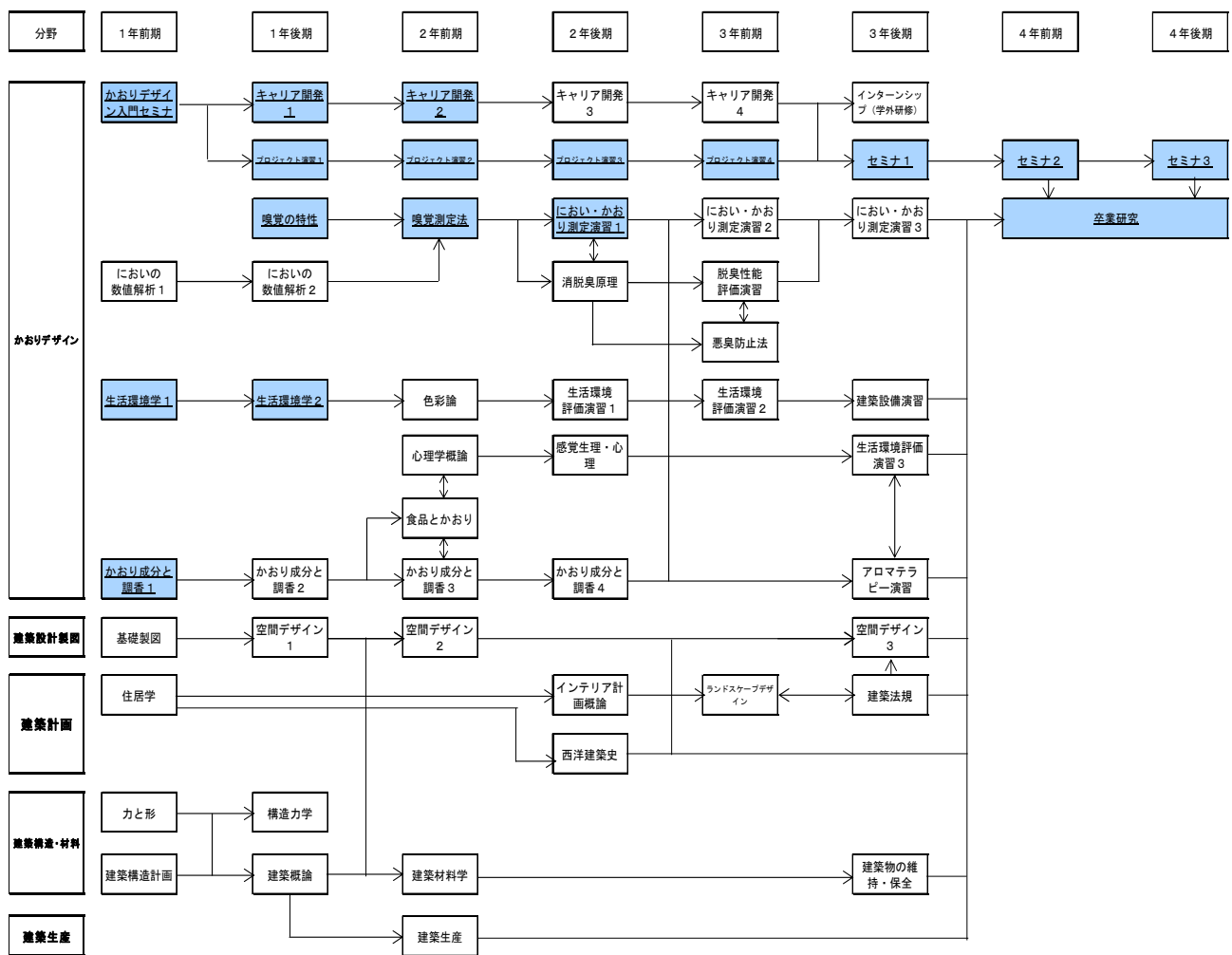
基礎数学セミナーでは、数式を一目で把握し、スムーズに計算できることを目標にします。「何とかできる」ではなく「一目でスムーズにできる」ことが自然科学・工学の素養として大切で、そのためには十分な量の練習が必要です。なお、3年次修了までにこの科目を習得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

イ [物理・化学関係科目](基礎理科セミナー)

大学で学ぶ科目の中には、理科の基礎知識を必要とするものが、物理・化学だけではなく、専門科目にも多くあります。基礎理科セミナーでは、大学で学ぶ上で最低限必要となる基礎的な数値計算や単位の取り扱い、および自然科学的な基礎知識を身につけることを目標とします。「何とかできる」ではなく「スムーズにできる」ことが自然科学・工学の素養として大切で、そのためには十分な量の練習が必要です。なお、3年次修了までにこの科目を習得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

4. 2-2 専門科目群の授業科目

専門科目群の授業科目は、かおりデザイン分野の基幹科目とそれらの知識を発展させる展開科目、卒業研究からなります。図-1にあげた専門基礎科目群および専門科目群のカリキュラム・フローチャートを図-3に示します。



*下線は必須科目

図-3 専門科目群のカリキュラム・フローチャート

① 基幹科目(計 16 科目)

基幹科目は、入門的・基礎的な専門知識を学ぶ必須科目と選択科目からなります

a. 必須科目

かおりデザインを学ぶための動機づけ科目である「かおりデザイン入門セミナー」、社会人基礎力も養う「キャリア開発1・2」、かおりデザインにかかわる課題について自らが主体的に調査、研究し、成果を発表する「プロジェクト演習1・2」、かおりデザインの入門的科目である「生活環境学1・2」、「かおり成分と調香1」、「嗅覚の特性」、「嗅覚測定法」からなります。

b. 選択科目

かおりデザインに関わる統計処理を学ぶ「においの数値解析1・2」、かおりデザインの基礎科目である「住居学」、「かおり成分と調香2」、「心理学概論」、「消脱臭原理」からなります。

② 展開科目(計 35 科目)

基幹科目で学習した内容を基に、発展的な内容を修得するのが展開科目です。「プロジェクト演習3・4」、「におい・かおり測定演習1」以外はすべて選択科目です。3年次の後期(6期)の「インターシップ(学外研修)」では、におい・かおりを専門とする企業などで実務実習を行います。

③ 卒業研究(計 4 科目)

セミナー1、セミナー2、セミナー3、そして卒業研究では、各自が課題を決め、その課題に関して研究を行います。卒業研究は4年間の集大成であり、これまで学んできた知識を応用し、研究を行います。研究に対する取り組み方を学び、最後に研究成果の発表を行います。

(3) 学習到達目標

標準教育プログラムで述べた内容をどのような順序で学び、どのような知識を修得するのかを学習到達目標としてカリキュラムマップに記載しています。

5. 履修モデル

基幹科目で重要なことは、かおりデザインを学ぶときに不可欠な基本知識を修得することです。また、展開科目や卒業研究では、卒業後の進路も見据えて、専門科目の中でどの分野に主眼をおいて学習するかを自分自身で考えることが大事です。図-4と図-5の履修モデルは、卒業後の進路に対応させて、以上に説明した教育課程の授業科目(専門基礎科目群と専門科目群)をどのように学習していくかというモデルを例示したものです。

図-4の履修モデルAでは、かおりデザイン分野の授業科目を選択しています。この履修モデルの場合には、卒業後直ちに、2級建築士の受験資格を得ることはできません。国家資格である臭気判定士やアロマ検定などにおい・かおり分野の資格取得を取得し、卒業後の進路として、におい・かおり分野を目指す場合を想定しています。図-5の履修モデルBでは、卒業後2級建築士の受験資格が得られるように授業科目を選択しています。

1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
人間科学科目群 27単位							

専門基礎科目

情報処理1	情報処理2
化学基礎1	化学基礎2

専門科目群

<u>かおりデザイン入門セミナー</u>	キャリア開発1	キャリア開発2	キャリア開発3	キャリア開発4	インターンシップ(学外研修)
	プロジェクト演習1	プロジェクト演習2	プロジェクト演習3	プロジェクト演習4	
	嗅覚の特性	嗅覚測定法	におい・かおり測定演習1	におい・かおり測定演習2	におい・かおり測定演習3
かおり成分と調香1	かおり成分と調香2	かおり成分と調香3	かおり成分と調香4		アロマセラピー演習
においの数値解析1	においの数値解析2	食品とかおり	消脱臭原理	脱臭性能評価演習	建築設備演習
基礎製図	空間デザイン1	空間デザイン2	空間デザイン3	ランドスケープデザイン	建築物の維持・保全
<u>生活環境学1</u>	<u>生活環境学2</u>	色彩論	生活環境評価演習1	生活環境評価演習2	生活環境評価演習3
建築構造計画	建築概論	建築材料学	インテリア計画概論	悪臭防止法	建築の法規
力と形	構造力学	建築生産	西洋建築史		
住居学		心理学概論	感覚心理生理		

セミナ1	セミナ2	セミナ3
卒業研究		

履修単位

6	5	5	5	4	2	0	0	合計
5	4	0	0	0	0	0	0	9
8	13	15	17	14	12	2	8	89
19	22	20	22	18	14	2	8	125

- *下線は必須科目
- *斜体は建築士受験資格関係科目

図-4 かおりデザイン専攻の履修モデルA

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
	人間科学科目群 27単位							

専門基礎科目群

情報処理1	情報処理2
化学基礎1	化学基礎2

専門科目群

かおりデザイン入門セミナー	キャリア開発1	キャリア開発2	キャリア開発3	キャリア開発4	インターンシップ(学外研修)
	プロジェクト演習1	プロジェクト演習2	プロジェクト演習3	プロジェクト演習4	
	嗅覚の特性	嗅覚測定法	におい・かおり測定演習1	におい・かおり測定演習2	におい・かおり測定演習3
かおり成分と調査1	かおり成分と調査2	かおり成分と調査3	かおり成分と調査4		アロマセラピー演習
においの数値解析1	においの数値解析2	食品とかおり	消脱臭原理	脱臭性能評価演習	建築設備演習
基礎製図	空間デザイン1	空間デザイン2	空間デザイン3	ランドスケープデザイン	建築物の維持・保全
生活環境学1	生活環境学2	色彩論	生活環境評価演習1	生活環境評価演習2	生活環境評価演習3
建築構造計画	建築概論	建築材料学	インテリア計画概論	悪臭防止法	建築の法規
力と形	構造力学	建築生産	西洋建築史		
住居学		心理学概論	感覚心理生理		

セミナー1	セミナー2	セミナー3
卒業研究		

履修単位	6	5	5	5	4	2	0	0	合計
	3	2	0	0	0	0	0	0	5
	12	13	15	17	12	14	2	8	93
	21	20	20	22	16	16	2	8	125

*下線は必須科目
*斜体は建築士受験資格関係科目

図-5 かおりデザイン専攻履修モデルB

工学部 建築学科 かおりデザイン専攻カリキュラムマップ

<p>大学の目的</p> <p>大同大学は、教育基本法並びに建学の精神と理念に則り、深い専門の学芸の教育研究を通じて、豊かな教養と専門的能力を有する質の高い職業人を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。</p>
--

<p>学部の教育研究上の目的</p> <p>工学部は、豊かな教養及び工学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、工学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。</p>
--

<p>学科の教育研究上の目的</p> <p>工学部建築学科は、建築および都市環境の創造、生産、維持活動に関する知識と技術を有し、豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、建築・インテリアおよび土木・環境分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。</p>
--

<p>学科の学位授与の方針</p>	<p>A. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。</p>	<p>I. 嗅覚の特性に関する知識があり、基本的なにおい・かおりの測定・評価ができる。</p>
	<p>B. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応するための素養を身につけることができる。</p>	<p>J. におい・かおりの特性に関する知識があり、有効な臭気対策が提案できる。</p>
	<p>C. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。</p>	<p>K. におい・かおりの化学、香料の成分に関する知識があり、かおりの特性を踏まえた適切なかおりを調香できる。</p>
	<p>D. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。</p>	<p>L. におい・かおりの特性、人の心と身体、人とかおりの関係に関する基礎知識があり、その時々で適切なかおりを選定し、活用方法を提案できる。</p>
	<p>E. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。</p>	<p>M. 生活環境要素に関する基礎知識があり、におい・かおりの要素を取り入れた快適な生活環境を創造できる。</p>
	<p>F. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。</p>	<p>N. 論点的確に捉え、必要な調査・実験データ、情報を収集し、そのデータを理論的に分析し、課題を解決することができ、客観的なデータに基づく自らの考えを分かりやすく伝えることができる。</p>
	<p>G. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。</p>	
	<p>H. 工学の基礎として数学、自然科学を活用することができる。</p>	

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択自由			
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・セミナー	1	[2]	1	<p>スタディ・スキルズとは、ノート・テイキング。リーディングのスキルと文章要約。図書館をどう利用するか。アカデミック・ライティングのスキルとレポート作成。プレゼンテーションのスキルと実践</p>	<p>高校と大学の学びの違いが理解できる。</p> <p>ノートの取り方が効果的にできる。</p> <p>文章を読んで、概要・要点をまとめることができる。</p> <p>図書館の利用法がわかる。</p> <p>レポートの作成の必要手順が分かる。</p> <p>基本的なレポートの作成ができる。</p> <p>プレゼンテーションの基本スキルが理解できる。</p> <p>プレゼンテーションの初歩的な実践ができる。</p> <p>授業科目の貢献度</p>
						<p>この授業では、高等学校までに学んだ英語を土台として、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する基礎能力を養成します。そのために、TOEIC テストの形式や傾向に慣れるための問題演習を通じて、リーディングとリスニングに関する学習方法を習得してもらいます。また、リーディングやリスニングの基礎となる語彙力の学習や基礎的な英文法も学習します。</p>	<p>TOEICに出題される基礎的な語彙の意味を理解できる。</p> <p>短い英文を聞き取り、その内容を大まかに理解できる。</p> <p>英文を読み、その内容を大まかに理解できる。</p> <p>基礎的な英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。</p> <p>基礎的な英文をでき得る限り正確に音読することができる。</p> <p>授業科目の貢献度</p>
						<p>この授業では、前期に開講されている資格英語1の内容を継続・発展させるかたちで、英語のリーディングおよびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する基礎能力を養成します。そのために、TOEIC テストの形式や傾向に慣れるための問題演習を通じて、リーディングとリスニングに関する学習方法を習得してもらいます。また、リーディングやリスニングの基礎となる語彙力の学習や基礎的な英文法も学習します。</p>	<p>TOEICに出題される語彙の意味を理解できる。</p> <p>短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。</p> <p>英文を読み、その内容を理解できる。</p> <p>英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。</p> <p>基礎的な英文を正確に音読することができる。</p> <p>授業科目の貢献度</p>
						<p>この授業では、英語の4技能(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)の基礎的な能力の向上をはかります。授業で扱う題材は「異文化理解」、「食」、「芸術」などの大学生として問題意識を持ち、深く考察してもらいたい事項を厳選しています。このような題材の英文を読み、聴くことにより、英語のリーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、主体的に考え、自分の意見を英語で記述したり、ペアワークやグループワークを通じて発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を向上させ、英語による発信力を高めることを目的とします。</p>	<p>題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。</p> <p>題材に関する基礎的な対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。</p> <p>聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。</p> <p>題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。</p> <p>題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。</p> <p>授業科目の貢献度</p>

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
		10												10
		10												10
		10												10
		10												10
		10				10								20
		10												10
		10				10								20
0	0	80	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8													20
12	8													20
12	8													20
12	8													20
12	8													20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8													20
12	8													20
12	8													20
12	8													20
10	8					2								20
58	40	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8													20
12	8													20
12	8													20
10	8					2								20
10	6		2			2								20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標				
			必修	選択自由							
人間科学科目群	Aグループ	英語スキル2	1	2	3	この授業では、前期に開講されている英語スキル1の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の基礎的な能力の向上をはかります。授業で扱う題材は「日本文化」、「環境問題」などの大学生として問題意識を持ち、深く考察してもらいたい事項を厳選しています。このような題材の英文を読み、聴くことにより、英語のリーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、主体的に考え、自分の意見を英語で記述したり、ペアワークやグループワークを通じて発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を向上させ、英語による発信力を高めることを目的とします。	<p>題材に関して、理解を深めることができる。</p> <p>題材に関する基礎的な対話文の内容を聞き取ることができる。</p> <p>聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。</p> <p>題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。</p> <p>題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。</p> <p>授業科目の貢献度</p>				
						英語スキル3	1	3	4	「英語スキル1・2」を踏まえ、英語の4技能(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)の更なる向上をはかります。授業では、題材として、「食」、「スポーツ」、「外国語学習」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。このような題材を読み、聴くことにより、リーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、自分で主体的に考え、それを英語で記述したり、発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を身につけてもらい、英語による発信力をいっそう高めることを目的とします。	<p>題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。</p> <p>題材に関する対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。</p> <p>聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。</p> <p>題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。</p> <p>題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。</p> <p>授業科目の貢献度</p>
										英語スキル4	1
		実践英語1(資格コース)	1	5	この授業では、1・2年次に学んだ「資格英語1・2」、「英語スキル1・2」、「英語スキル3・4」を踏まえ、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する能力の向上を狙いとします。そのために、TOEICの問題演習や語彙力の強化をはかります。						
					実践英語1(スキルコース)	1	5	この授業では、1・2年次に学んだ「資格英語1・2」、「英語スキル1・2」、「英語スキル3・4」を踏まえ、英語の4技能(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)の一層の向上をはかります。授業では、題材として、「異文化理解」、「外国語学習」、「芸術」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。特に、発信力の向上に重点を置き、題材に関する自身の意見を英語で記述したり、受講者がその題材について英語で意見交換ができるようになることを目指します。	<p>題材に関して、基礎的な理解を十分深めることができる。</p> <p>題材に関するやや難しい対話文の大まかな内容を聞き取ることができる。</p> <p>聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。</p> <p>題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。</p> <p>題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。</p> <p>授業科目の貢献度</p>		
								実践英語2(資格コース)	1	6	この授業では、前期に開講されている実践英語1(資格コース)の内容を継続・発展させるかたちで、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する能力の向上を狙いとします。そのために、TOEICの問題演習や語彙力の強化をはかります。
		実践英語2(スキルコース)	1	6							この授業では、前期に開講されている実践英語1(スキルコース)の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の一層の向上をはかります。授業では、題材として、「異文化理解」、「外国語学習」、「芸術」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。特に、発信力の向上に重点を置き、題材に関する自身の意見を英語で記述したり、受講者がその題材について英語で意見交換ができるようになることを目指します。

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
12	8													20
12	8													20
12	8													20
10	8					2								20
10	6		2			2								20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	100
14	6													20
12	5					3								20
12	5					3								20
12	5					3								20
12	5					3								20
62	26	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	100
10	7		2	1										20
12	8													20
12	8													20
12	8													20
12	2					6								20
58	33	0	2	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8													20
12	8													20
12	8													20
12	8													20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8													20
12	8													20
12	8													20
12	8													20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8													20
12	8													20
12	8													20
12	8													20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8													20
12	8													20
12	8													20
12	8													20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択自由			
人間科学科目群	Aグループ	健康科学演習A (卓球)	1		1	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。 対人ラリーが20球続けられる。 フォアハンドロングによるラリーができる。 バックハンドによるショートをつなぎができる。 相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。 目的の位置にサービスを打つことができる。 得点の数え方および審判ができる。 授業科目の貢献度
		健康科学演習A (バドミントン)	1		1	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることが出来る オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る アンダーハンドストロークが出来る ネットプレーによるつなぎが出来る スマッシュを打つ事が出来る 目的の位置にサーブを打つ事が出来る 得点の数え方および審判が出来る 授業科目の貢献度
		健康科学演習A (硬式テニス)	1		1	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。 フォアハンドストロークによるラリーができる。 フォアハンドストロークを打つことができる。 フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。 バックハンドボレーを打つことができる。 アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。 得点の数え方および審判ができる 授業科目の貢献度
		健康科学演習A (サッカー・フットサル)	1		1	レクリエーションスポーツの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	積極的に運動ができた。 自分の体と向きあうことができた。 ゴール型スポーツの構造を理解できた。 サッカー・フットサルのルールを理解できた。 授業科目の貢献度
		健康科学演習B (卓球)	1		2	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。 対人ラリーが20球続けられる。 フォアハンドロングによるラリーができる。 バックハンドによるショートをつなぎができる。 相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。 目的の位置にサービスを打つことができる。 得点の数え方および審判ができる。 授業科目の貢献度
		健康科学演習B (バドミントン)	1		2	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることが出来る オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る アンダーハンドストロークが出来る ネットプレーによるつなぎが出来る スマッシュを打つ事が出来る 目的の位置にサーブを打つ事が出来る 得点の数え方および審判が出来る 授業科目の貢献度

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
		20												20
		15												15
		10												10
		10												10
		10												10
		15												15
					20									20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20												20
		15												15
		10												10
		10												10
		10												10
		15												15
					20									20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		30												30
		30												30
					20									20
					20									20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20												20
		15												15
		10												10
		10												10
		10												10
		15												15
					20									20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択自由			
人間科学科目群	Aグループ	健康科学演習B (硬式テニス)	1		2	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。
							フォアハンドストロークによるラリーができる。
							フォアハンドストロークを打つことができる。
							フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。
							バックハンドボレーを打つことができる。
							アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。
							得点の数え方および審判ができる。
							授業科目の貢献度
							積極的に運動ができた。
							自分の体と向きあうことができた。
							ゴール型スポーツの構造を理解できた。
							サッカー・フットサルのルールを理解できた。
						授業科目の貢献度	
	Bグループ	日本文学A	2	3	5	文学作品の読解を通じて、言葉と感性に磨きをかけ、人間と社会について多面的に考察する。	叙述に基づいて、文章の構成や展開を的確に捉え、必要に応じて要約や詳述できる。
題材を批判的に検討して自分の考えを持ち、論理の構成や展開を工夫して文章にまとめる。							
文学的文章の中から、主体的に課題を発見し追及する力を養う。							
日本の言語文化にふれて、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。							
						文学的文章を通じて視野を広げ、人間、社会、自然などについて考えを深め発展させる。	
						授業科目の貢献度	
		日本文学B	2	4	6	文学作品の読解を通じて、自ら課題を発見し、それに論理的でかつわかりやすい表現を与える。	叙述に基づいて、文章の構成や展開を的確に捉え、必要に応じて要約や詳述できる。
題材を多角的に検討して自分の考えを持ち、課題に応じて自分の考えを表現する。							
文学的文章の中から、主体的に課題を発見し追及する力を養う。							
日本の言語文化にふれて、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。							
						文学的文章を通じて視野を広げ、人間、社会、自然などについて考えを深め発展させる。	
						授業科目の貢献度	
		外国文学A	2	1	3	5	活字や映像を通して文学作品の内容を理解することができる。
文学作品を生み出した作家について、理解を深めることができる。							
文学作品が書かれた文化的な背景について、理解を深めることができる。							
自分の考え方との共通点や相違点を意識しながら文学作品を読解できる。							
						文学作品について、自分の見解などを適切な言葉で書くことができる。	
						授業科目の貢献度	
		外国文学B	2	2	4	6	活字や映像を通して文学作品のテーマを理解することができる。
文学作品を生み出した作家の思想や伝記について、理解を深めることができる。							
文学作品が書かれた文化的な背景について、現代の文化との共通点や相違点を理解することができる。							
文学作品の読解を通して自分の考え方を客観的に見直すことができる。							
						文学作品について、自分の見解などを論理的に書くことができる。	
						授業科目の貢献度	
		哲学A	2	1	3	5	プラトン哲学におけるイデア論について説明できる。
デカルト哲学におけるコギトの意義について説明できる。							
啓蒙思想の諸相とその功罪について説明できる。							
西欧近代の日本における受容の特質について説明できる。							
						知的リフレッシュメントを味わうことができる。	
						授業科目の貢献度	

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
		20												20
		15												15
		10												10
		10												10
		10												10
		15												15
					20									20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		30												30
		30												30
					20									20
					20									20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20											20
			20											20
			20											20
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20											20
			20											20
			20											20
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20											20
			20											20
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20											20
			20											20
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標	
			必修	選択自由				
人間科学科目群	Bグループ	哲学B	2		2.4.6	哲学という学問そのものの意義について理解できる。	哲学者の考察をふまえ、さまざまな日常的テーマについて哲学的考察を示すことができる。	
						「人間力」を測るものさしを複数もつことができる。	おおまかな倫理思想の流れについて理解することができる。	
		文化人類学A	2	3.5		さまざまな文化へのアプローチを学ぶとともに、現代社会の課題について考察する。	現代における人間像について様々な角度から考えることができる。	様々な文化を比較することができる。
							習慣の意味が理解できる。	形のないものの価値について考えることができる。
		文化人類学B	2	4.6		文化事象を歴史的に捉え、変化するものと変化しないものを区別する。	現代社会における通過儀礼の意味が理解できる。	「変わっていくもの」と「変わらないもの」についてその意味を考察することができる。
							コミュニケーションについて様々な捉え方ができる。	授業科目の貢献度
		歴史学A	2	1.3.5		日本の近代化が進められていく背景や文明開化が社会に与えた影響を、幕末以降の東アジア各国及び西欧列強との関係をもとにして理解する。	日本の近代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。	国際環境と関連づけて日本の近代史を理解できる。
							西洋的価値観の導入により生じた明治時代の社会の変化を理解できる。	歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。
		歴史学B	2	2.4.6		近代日本が主体的に起こした戦争や戦後に繰り返される戦闘行為の概要を押さえ、かつそれぞれの発生原因を追及することにより、戦争の連鎖を断ち切るために何が必要かを導き出す。	日本が関係した近現代の戦争の内実を把握し、戦争と平和について自ら考えることができる。	歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。
							過去の様々な事例から教訓をみつけ、現代社会にいかそうとすることができる。	授業科目の貢献度
		心理学A	2	1.3.5		人間の心の働きと変化の様相を多角的に捉え、あらためて自分を知る。	感覚と知覚の違い、および知覚機能の特徴(錯視など)について、理解することができる。	学習・記憶の基本的メカニズムについて理解することができる。
							欲求と動機、感情の特徴や機能について理解することができる。	発達という概念、および発達過程の様相について、理解することができる。
心理学B	2	2.4.6		他者(たち)との関わり、社会での位置どりの観点から人間の行動・態度を捉えなおし、あらためて自分のあり方を考える。	自己概念および自己表出(自己呈示・自己開示)の特徴や機能について、理解することができる。	人間の「ものや人に対する見方」(社会的知覚・対人認知)の特徴について、理解することができる。		
					対人魅力と対人関係の進展、および対人的コミュニケーションの特徴や機能について、理解することができる。	集団のもつ特徴や機能、および集団内での人間の行動について、理解することができる。		
授業科目の貢献度								

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
			20											20
			20											20
			20											20
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20											20
			20											20
			20											20
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20											20
			20											20
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20											20
			20											20
			20											20
			20											20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標						
			必修	選択自由									
人間科学科目群	Bグループ	教育原理	2	1	1	西洋における教育思想や近代公教育制度の成立とわが国への導入過程を理解し、教育理念の多様性と今日的な教育問題について歴史的背景・社会的状況と関連づけながら考える。	教育の目的について考え、多様な教育の理念が思索・蓄積されてきたことを理解することができる。 近代公教育制度の成立について、歴史的背景を踏まえて理解することができる。 教育を成り立たせる要素についてそれぞれを関連づけながら理解することができる。 近年の教育課題や教育改革の動向を教育の歴史や社会的状況と関連づけながら理解することができる。						
						授業科目の貢献度							
		教育心理学	2	3	3	3	「教育」という営みをとらえてみる人間の变化、他者・世界との関わりのある様子を捉え、同時に、それらから「教育」のあり方を考える。	「発達」とはどのようなことかを理解し、認知・感情・社会性(愛着など)の発達の様相を把握することができる。 発達上の「青年期」の特徴を理解し、青年にまつわる現代の問題について心理学的な観点から考察することができる。 条件づけや観察学習、記憶の基本的なメカニズムを理解することができる。 欲求と適応(不応)との関係、およびフラストレーション・コンフリクトの発生メカニズムを理解することができる。 動機と動機づけの違い、および達成動機と親和動機の関連について理解することができる。 「リーダーシップ」や「ソシオメトリー」などの観点から、学級集団の特徴・構造を把握することができる。 生徒の「問題行動」の内容・実態を把握し、それらへの対応策について心理学的な観点から考察することができる。 「パーソナリティ」概念、およびそのとらえ方を理解することができる。					
							授業科目の貢献度						
							政治学A	2	1・3・5	1	5	政治学の基礎概念(政治、権力、国家など)を理解する。 自由民主主義の理論と政治制度について理解する。 議院内閣制と大統領制を比較し、それぞれの特徴を理解する。 政治制度の基本的枠組み(国会、内閣、選挙、政党、利益集団、地方自治など)を理解する。 自分と政治との関わりについて考えることができる。	20 20 20 20 20
												授業科目の貢献度	
							政治学B	2	2・4・6	2	6	政治制度の基本的枠組みと特質について理解する。 現代民主主義の理論的特徴について理解する。 現代民主主義の制度的特徴について理解する。 現代政治における政党の機能および政党制の展開について理解する。 授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。	20 20 20 20 20
												授業科目の貢献度	
							経済学A	2	1・3・5	1	5	経済学における基本的な用語や理論を身に付け、自分の言葉で説明することができる。 資本主義の意味と影響を把握し、説明することができる。 経済・産業の見取り図を描き、そこに自分や身近な存在を位置づけ、説明することができる。 経済活動の役割とその限界を認識し、適切に活用することができる。 講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。	30 10 20 10 30
												授業科目の貢献度	
経済学B	2	2・4・6	2	6	経済データを用いて経済関係やその変化を説明することができる。 日本の経済構造について、国際的視野を交えつつ説明することができる。 歴史上に起こった出来事が経済をどのように変えたのかを説明することができる。 日本の企業の特徴・構造について説明できる。 講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。	30 20 10 10 30							
					授業科目の貢献度								
法学A	2	3・5	3	5	授業で扱う学説や判例を正確に理解できる。 授業で扱う学説や判例の当否を論理的に説明できる。 授業で得た知見を利用して、現実の政治問題や社会問題を論評できる。 日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。	25 25 25 25							
					授業科目の貢献度								

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
				30										30
				30										30
				20										20
				20										20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			10											10
			10	10										20
			10											10
			10											10
			10											10
			10	10										20
			10											10
0	0	0	80	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20										20
				20										20
				20										20
				20										20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20										20
				20										20
				20										20
				20										20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30										30
				10										10
				20										20
				10										10
				10										10
				30										30
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25										25
				25										25
				25										25
				25										25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標					
			必修	選択自由								
人間科学科目群	Bグループ	法学B		2	4・6	日本国憲法の制定経緯が説明できる。	日本国憲法の基本原則が説明できる。					
						日本国憲法における国民主権の意味を理解し、説明できる。	基本的人権の内容と意義を理解し、説明できる。					
						表現の自由とその制約原理を説明できる。	違憲立法審査権の具体的事件を説明できる。					
						授業科目の貢献度						
						社会学A	2	1・3・5	社会学のイメージをつかむ	社会学および社会学の方法を学び、身近な社会現象への関心を培う。また、学んだ理論を人間関係や組織の分析に生かすことを目指す。	社会学のイメージをつかむ	社会学のイメージをつかむ
									方法論的個人主義(ヴェーバー)と方法論的集団主義(デュルケム)の違いを理解する	社会における不平等のあり方を、階級・階層という概念と結びつけて考えられる	「内集団」「外集団」のメカニズムを理解する	東アジアにおけるヒト・モノ・カネの動きの変化を考えながら、日本社会のグローバル化を捉えること
		授業科目の貢献度										
		社会学B	2	2・4・6	社会学が持つ量的・質的な分析方法を学ぶ。また個人と集団の間、時代間、地域間などの異なった論理を持つ主体や社会の間に存在する連続性や変動要因に着目し、理解することを旨とする。				社会学が持つ分析手法(量的・質的)や社会問題の分析視角について、イメージをつかむこと。	個人化という概念について説明できるようになること。	ネオリベリズム(新自由主義)という概念について説明できるようになること。	
					非正規雇用が増加する社会的背景が説明できるようになること。				グローバル化が進む中で、日本を含めたアジアが大きく変化しつつあることを理解する。	授業科目の貢献度		
					社会調査の方法A				2	3・5	社会調査の目的とその種類(質的調査と量的調査)について理解する。	母集団及び標本抽出について理解する。
						質的・量的な社会調査の基本的な知識と手法を理解する。	統計学的な仮説検定の手順について正しく理解する。	質的調査の種類とその技法を先行研究から学びとる。			授業科目の貢献度	
						社会調査の方法B	2	4・6			社会調査の多様な方法とそれぞれの利点を理解する。	統計学的手法を用いて因果関係を分析する考え方について理解する。
社会調査の意義を理解するとともに、社会調査の実施(調査設計、データ収集、データ分析)に必要な知識を学び、それを活用してみる。	質的調査の調査計画を立てられるようになるとともに、考慮すべき調査倫理を理解する。										授業科目の貢献度	
現代社会論A	2	3・5	授業で扱う国・地域・人物などについての基本的な情報を理解する。	担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。							授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。	地域研究(エリアスタディーズ)で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い直すことができる。
			授業科目の貢献度									
			現代社会論B	2	4・6				授業で扱う国・地域・人物などの学術的アプローチの面白さを理解する	担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する	授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる	地域研究(エリアスタディーズ)で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い直すことができる
									授業科目の貢献度			
						教育社会学	2	2	自己の教育経験・教育観を相対化し、種々の教育事象・教育問題を社会学的なものの見方によって考察することができる。	学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な例をもとに説明することができる。	教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することができる。	学校と保護者・地域との協働について具体的な事例をもとに説明することができる。
									授業科目の貢献度			

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
				10										10
				20										20
				20										20
				20										20
				20										20
				10										10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30										30
				20										20
				20										20
				20										20
				10										10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20										20
				20										20
				20										20
				20										20
				20										20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20										20
				20										20
				20										20
				20										20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25										25
				25										25
				25										25
				25										25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25										25
				25										25
				25										25
				25										25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25										25
				25										25
				25										25
				25										25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標	
			必修	選択				
人間科学科目群	Bグループ	健康科学A	2		1・3・5	生命・身体の仕組みについて学ぶことによって傷害や疾病などへの理解を深める。	体の仕組みについて理解できる。	
							発育の仕組みについて理解できる。	
		健康科学B	2		2・4・6	身体の解剖学的構造、生理学的な仕組みを理解することで身体の働きについての理解を深める。	年齢とからだの関係について理解できる。	
							健康について理解できる。	
		授業科目の貢献度						
		認知科学A	2		3・5	認知科学の基本、とくに知覚や記憶のメカニズムについて習得する。	健康に対する取り組みについて理解できる。	
	健康に対する取り組みについて理解できる。							
	授業科目の貢献度							
	認知科学B	2		4・6	認知機能と人間の行動との関係について考察する。	情報の処理アプローチに基づく認知科学の方法論を説明することができる。		
						知覚、記憶といった認知機能の仕組みを説明することができる。		
	授業科目の貢献度							
	環境科学A	2		3・5	環境科学の基本とこれまでの環境問題対策を実例を通じて修得する。	認知機能の神経機構について説明することができる。		
ヒューマンエラーの原因について説明することができる。								
授業科目の貢献度								
環境科学B	2		4・6	環境問題と人間社会の関係を理解し、今後の環境問題へのアプローチを考察する。	認知科学の哲学的な問題を説明することができる。			
					認知科学がどういった学問であるかについて、基本的な説明をすることができる。			
授業科目の貢献度								
自然科学概論A	2		1・3・5	物理学はすべての自然科学の土台にあたる学問である。身近な電気や熱をはじめ、現代物理学の基本を学びながら、科学技術と生活・社会との関係についても考える。	我々が当たり前に行っている認知について自発的な疑問を立て、それに対して参考文献等を用いながら論理的な説明を与えることができる。			
					記憶のメカニズムや分類について説明することができる。			
授業科目の貢献度								
自然科学概論B	2		2・4・6	化学は物質の本質、あり様、変化を探る学問である。原子、電子をパーツとする物質の基本と多様性の概要を学習しながら、現代社会での科学技術における化学と関連分野の意味と役割を学習する。	地球内部の運動が地球環境に及ぼす影響を理解する。			
					地球環境問題のメカニズムの基礎を理解する。			
授業科目の貢献度								
授業科目の貢献度								

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
				10										10
			10	10										20
				10										10
		10	10	10										30
		10	10	10										30
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		10		10										20
		10		10										20
			10	10										20
			10	10										20
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20									20
					20									20
					20									20
					20									20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					10									10
					20									20
					20									20
					20									20
					10									10
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20									20
					20									20
					20									20
					40									40
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20									20
					20									20
					20									20
					20									20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20									20
					20									20
					20									20
					20									20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20									20
					20									20
					20									20
					20									20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択自由			
人間科学科目群	Bグループ	生物学A	2	3・5	生物学の基本を習得し、人間を生物として捉え、特別扱いしない視点を獲得する。	生物学、進化生物学、行動学、遺伝学等のミクロ系・マクロ系生物学の基礎概念と、それらを融合した保全生物学に応用する思考方法を理解することができる。	
						生物多様性のメカニズムについて説明することができる。	
						遺伝的多様性の必要性について説明することができる。	
						生物間のネットワークや環境の影響について説明することができる。	
						環境保全の必要性を理解し、自らと異なるヒトの考え方や文化的多様性、生物の多様性について理解を試み、共存方法を模索できる。	
						授業科目の貢献度	
		生物学B	2	4・6	動物の行動の機能を学び、そこから人間行動の特質を進化的な視点から考察する	進化学理論や行動学、社会生態学、生理学、遺伝学等のミクロ系・マクロ系生物学の基礎概念と生物の進化メカニズムを理解することができる。	
						ヒトの進化史を大まかに説明することができる。	
						自然選択における環境と生物の関係について説明することができる。	
						性選択と自然選択の違いについて説明することができる。	
						脳やホルモン、遺伝子による行動への影響について理解することができる。	
						授業科目の貢献度	
地球科学A	2	3・5	地球の成り立ちを学び、気象変動を理解する。	与えられたデータから震源決定の方法および、GPSの原理が理解できる。			
				最新の観測技術を学び、プレート運動が理解できるようにする。			
				鉱物の観察から、結晶構造の特徴を単位格子から読み解けるようになる。			
				水の特性から生物に与える影響が理解できる。			
				古生物の化石の観察から、生物の進化の歴史が理解できる。			
				地球の過去の姿から、地球の将来の像を考察する。			
授業科目の貢献度							
地球科学B	2	4・6	地球科学の基本を学ぶことから、将来の地球と人間社会のあり方を考察する。	天体の距離計算の歴史を紐解きながら、最新の観測方法を理解できる。			
				様々な波を観察することによって、津波のメカニズムを理解し、災害に対する備えを養う。			
				地球の運動のデータから暦の原理が理解できる。			
				日本の天気図から、日本列島で起こる様々な自然災害について考察する。			
				太陽系の進化から地球の未来像を把握する。			
				授業科目の貢献度			
リベラルアーツ特別講義	2	集中講義9月	現代ヨーロッパの政治的動向と国際関係を学び、わが国を取り巻く国際環境と進路選択と関連づけて考察する。	理工系・情報学系の学生が人文社会科学系の国際的教養を身につけることができる。			
				問題解決に向けた新たな提案や構想を持つことができる。			
リベラルアーツ実践演習A	2	3・5	少人数のセミナー形式での議論・実験・フィールドワーク等の体験を通して、自然科学・社会科学・人文科学分野における知識や技術の意義とその活用方法を学ぶ。	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。			
				諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。			
				課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。			
				自らの課題に対して解決まで導くことができる。			
				コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。			
				授業科目の貢献度			
リベラルアーツ実践演習B	2	4・6	少人数のセミナー形式での演習を通じて、自然科学・社会科学・人文科学分野における専門的な思考法・研究法・表現法を学ぶ。	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。			
				諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。			
				課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。			
				自らの課題に対して解決まで導くことができる。			
				コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。			
				授業科目の貢献度			

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
					20									20
					20									20
					20									20
					20									20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20									20
					20									20
					20									20
					20									20
					20									20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20									20
					20									20
					20									20
					20									20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					40									40
					20									20
					40									40
0	0	0	0	60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20									20
					20									20
					20									20
					20									20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択自由			
人間科学科目群	Bグループ	教養総合講座A	2	3・5	社会の第一線で活躍中の実務経験豊富な講師を迎え、これからの企業人に必要不可欠なCSR (Corporate Social Responsibility = 企業の社会的責任) を共に考える。	現代の問題群を整理することができる。	
						ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。	
						課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。	
						これまでの問題解決アプローチをまとめることができる。	
	授業科目の貢献度						
	教養総合講座B	2	4・6	企業体の危機管理の諸局面について具体的な事例を通じて学び、その上でさまざまな制約下でのビジネスモデルの創出について議論し考える。	現代の問題群を整理することができる。		
					ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。		
					課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。		
					問題解決に向けての新たな提案や構想をもつことができる。		
	授業科目の貢献度						
	自然科学系	線形代数1	2	1	行列式および行列の基本性質、演算方法を学び、1次連立方程式の解法に応用する。複素数の基本事項についても学ぶ。	行列式の基本性質を説明できる。	
						余因子展開を使って行列式の計算ができる。	
行列の和・積等の計算ができる。							
逆行列を求めることができる。							
授業科目の貢献度							
線形代数2		2	2	高等学校で学んだベクトルをさらに詳しく学んだ後、新しくベクトルの外積を学び、空間図形の解析に応用する。	空間における平面の方程式・直線の方程式を説明できる。		
					内積の定義および演算法則を説明できる。		
					成分計算を含め内積を使った計算ができる。		
					外積の基本性質を説明できる。		
授業科目の貢献度							
基礎物理A		2	2	この科目では、電気と磁気を統一的に理解する物理学の一分野である「電磁気学」の基礎を扱います。電磁気学は電流や電気回路などを理解する基礎理論であり、重要な科目です。この科目では、まず「電荷を担う基本的なものは電子などの粒子であること」や「電流は電子の集団の運動であること」など基本的な自然界の姿を学びます。次に、これを踏まえて、電場(電界)や磁場(磁界)といった「場」という概念を学びます。なお、電磁気学の内容には力学の考え方を応用して理解するものが随所に出てきます。電磁気学を学ぶ前に力学を学んでおく必要があります。	電気力と電場の関係を説明できる。		
					電位と静電エネルギーを説明できる。		
	ミクロな視点で電流を説明できる。						
	ローレンツ力と磁場(磁束密度)の関係を説明できる。						
授業科目の貢献度							
基礎物理B	2	3	基礎物理Bでは熱力学の基礎事項を学びます。この科目では、まず、熱の微視的な理解つまり「物質の構成要素(電子や分子など)の乱雑な運動のエネルギーとして熱が理解できること」を学びます。次に、これを踏まえて、熱や仕事などエネルギーの巨視的な理解、特に熱力学第一法則を学びます。熱力学は、専門科目においてエンジン燃料の燃焼効率、発電機や電池の発電効率などを考える際の基礎となる重要な科目です。なお、熱力学の内容には、力学の考え方を応用して理解するものが随所に出てきます。熱力学を学ぶ前に力学を学んでおく必要があります。	熱力学第1法則を説明できる。			
				気体分子の熱運動で、内部エネルギー、熱、圧力、絶対温度などの物理量を説明できる。			
				熱と温度の違いを説明できる。			
				p-V グラフと仕事の関係を説明できる。			
授業科目の貢献度							
化学基礎1	2	1	原子の構造、電子軌道および電子配置、元素の物理化学的性質を学び、イオン結合、共有結合など化学結合についても学ぶ。また、気体、液体、固体の状態の物理化学的性質についても学ぶ。	原子量、分子量、式量の関係を理解し、物質質量(モル)についての計算ができる			
				原子の構造を説明できる			
				元素の周期律と電子配置を説明できる			
				化学結合と分子の形の関連を理解し、物質の性質の説明に応用できる			
授業科目の貢献度							

学科(専攻)の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計	
						20								20	
						20								20	
						20								20	
						40								40	
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100	
						20								20	
						20								20	
						20								20	
						40								40	
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100	
					12		4							16	
					10		8							18	
					7		8							15	
					9		9							18	
					6		10							16	
					8		9							17	
0	0	0	0	0	52	0	48	0	0	0	0	0	0	100	
					14		4							18	
					8		2							10	
					4		8							12	
					8		2							10	
					4		8							12	
					8		10							18	
					10		10							20	
0	0	0	0	0	56	0	44	0	0	0	0	0	0	100	
					8		12							20	
					8		12							20	
					8		12							20	
					8		12							20	
0	0	0	0	0	40	0	60	0	0	0	0	0	0	100	
					10		15							25	
					10		15							25	
					10		15							25	
					10		15							25	
0	0	0	0	0	40	0	60	0	0	0	0	0	0	100	
									5	10		5		20	
										10				10	
										10				10	
										10				10	
									5	10		5		20	
									10	10				20	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	70	0	10	0	100	

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標				
			必修	選択自由							
自然科学系	化学基礎2		2	2	2	化学とエネルギー、有機材料、環境や生命との関わりを学ぶ。さらに化学物質やエネルギーを作り出す化学反応についても学ぶ。	化学反応の速度と活性化エネルギーの関係を説明できる				
						化学平衡について理解し、平衡反応を平衡定数から説明できる					
						化学反応とエネルギー、エントロピーの関係を説明できる					
						酸化還元反応の本質を理解し、電池のしくみなどの説明に応用できる					
						代表的な有機化合物の構造と性質を説明できる					
						生命と化学との関係を説明できる					
						環境と化学との関係を説明できる					
	授業科目の貢献度										
	数学基礎		2	2	1 [2]	高等学校の数学から大学の数学への橋渡しとして、三角関数、指数関数、対数関数、集合と命題について学ぶ。	複素数の範囲で、2次方程式および高次方程式を解ける。				
						分数式の四則計算と部分分数分解ができる。					
						弧度法による一般角の三角関数を説明できる。					
						三角関数の加法定理を用いた計算ができる。					
						指数法則を理解し、それを用いた計算ができる。					
						対数の性質を理解し、それを用いた計算ができる。					
						集合の共通部分と合併集合を理解し、公式を用いた要素の個数の計算ができる。					
授業科目の貢献度											
解析学1		2	2	1 [2]	1変数関数の微分積分の基礎理論と基礎的な計算法について学ぶ。多くの演習を通じて、微分積分の計算に慣れるようにする。	導関数の基本公式(定数倍・四則・合成関数)を説明できる。					
					基本関数(べき関数、指数・対数関数、三角・逆三角関数)の微分公式を説明できる。						
					初等関数を微分できる。						
					不定積分の意味および基本関数の不定積分公式を説明できる。						
					置換積分法と部分積分法を理解し、それらに応用できる。						
					定積分と不定積分の関係を理解し、基本的な定積分の計算ができる。						
					授業科目の貢献度						
					工学基礎系	解析学2		2	2 [3]	1変数関数の微分積分の応用理論と発展的な計算法について学ぶ。多くの演習を通じて、微分積分の応用に慣れるようにする。	ライプニッツの公式を理解し、それを積の高階微分計算に応用できる。
ロピタルの定理を理解し、それを不定形の極限計算に応用できる。											
テーラーの定理を理解し、指数関数・三角関数のテーラー展開がかけられる。											
有理関数の不定積分を計算できる。											
無理関数・三角関数を含む不定積分を置換積分を用いて計算できる。											
定積分の応用として、曲線の長さを計算できる。											
授業科目の貢献度											
解析学3		2	2	3 [4]						解析学1, 2を基にして、多変数関数(主に2変数関数)の微分、積分法の基礎理論とその応用について学ぶ。	偏導関数の意味を理解し、初等関数の偏導関数を求めることができる。
					2変数関数についての合成関数の微分公式(連鎖律)を理解し、それに応用できる。						
					2変数関数の極値を調べることができる。						
					2重積分の意味と基本性質を説明できる。						
					反復積分公式を使って2重積分を計算できる。						
					変数変換公式を用いる2重積分の計算ができる。						
					授業科目の貢献度						
					常微分方程式		2	2	4 [5]	解析学1, 2の基本事項を基にして、1変数関数の微分方程式である常微分方程式の解法について学ぶ。	常微分方程式とその解の意味を説明できる。
変数分離形および同次形の微分方程式が解ける。											
1階線形および完全微分形の微分方程式が解ける。											
斉次線形微分方程式の解の性質を説明できる。											
定数係数斉次線形微分方程式が解ける。											
2階非斉次線形微分方程式の特殊解の求めかたを理解し、それに応用できる。											
授業科目の貢献度											

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
									10	10				20
									10	10				20
									10	10				20
									10					10
											10			10
												10		10
												10		10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	40	0	20	0	100
					11		5							16
					6		10							16
					5		7							12
					9		5							14
					6		8							14
					6		6							12
					12		4							16
0	0	0	0	0	55	0	45	0	0	0	0	0	0	100
					10		7							17
					9		6							15
					8		10							18
					8		6							14
					6		12							18
					6		12							18
0	0	0	0	0	47	0	53	0	0	0	0	0	0	100
					8		7							15
					9		6							15
					10		8							18
					7		13							20
					6		12							18
					6		8							14
0	0	0	0	0	46	0	54	0	0	0	0	0	0	100
					8		6							14
					6		10							16
					6		14							20
					10		5							15
					5		15							20
					6		9							15
0	0	0	0	0	41	0	59	0	0	0	0	0	0	100
					9		6							15
					4		12							16
					5		16							21
					10		5							15
					7		10							17
					5		11							16
0	0	0	0	0	40	0	60	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択			
専門基礎科目群	工学基礎系	力学1	2	1	2	物理学の一分野である力学の主な目的は「物体の運動を知ること」だと言えます。その理論体系には自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。この力学1という科目の大きな目標は、 (1) ベクトルに基づいて、力の合成・分解を正確に理解する (2) 微分積分に基づいて、運動方程式を解くことで物体の運動が決定できることを学ぶ の二つです。 この科目は、工学系の専門科目(例えば工業力学や構造力学などの名称の科目)につながる重要な科目です。 なお、理系の大学生には「物事を理路整然と理解すること」が必要になりますが、その理路整然とした理解を実行する具体例としても、力学は好都合です。	力の合成・分解をベクトルを使って説明できる。 基本的な力(重力、ばねの力、摩擦力)の法則を説明できる。 速度、加速度の定義を説明できる。 力学の3つの基本法則を説明できる。 放物運動の運動方程式を解き、その運動を説明できる。
						授業科目の貢献度	
						力学2	2
	授業科目の貢献度						
	力学3	2	3	物理学の一分野である力学の主な目的は「物体の運動を知ること」だと言えます。その理論体系には自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。この力学3という科目の大きな目標は、 (1) 力学2よりも高度なレベルでベクトルと微分積分を使って、物体の運動(減衰・強制振動、振り子運動)を理解する (2) 振動現象を基に理解できる波動現象の基礎事項を理解する の二つです。 なお、理系の大学生には「物事を理路整然と理解すること」が必要になりますが、その理路整然とした理解を実行する具体例としても、力学は好都合です。	運動方程式に基づいて、減衰振動と強制振動を説明できる。 角運動量と力のモーメントの定義をベクトルの外積を使って説明できる。 単振り子の運動方程式を解き、その運動を説明できる。 波動の基本的な性質を説明できる。		
	授業科目の貢献度						
	情報系	情報処理1	2	1	1	Windows PCの基礎知識を身につけることを目的として、PCのハードウェア構成から大学内のPC・ネットワークを活用する方法および電子メールやレポート作成、卒業研究などで活用するソフトウェア(Microsoft Office)を用いた文書作成、表計算・グラフ作成、プレゼンテーションを学ぶ	コンピューターのハードウェアの基礎を説明できる。 電子メールの作成、送信、受信ができる。 Wordを用いて文章の作成ができる。 Excelを用いてグラフの作成や計算ができる。 PowerPointを用いてプレゼンテーションができる。
						授業科目の貢献度	
	情報処理2	2	2	調査から得られたデータを情報をExcelで整理・分析し、その結果をWordで要約すると共に、PowerPointで分かりやすく相手に伝えるためのより高度な技術を学ぶ。また、調査の目的設定と方法についても学ぶ。	統計処理の基礎が理解できる。 Excelを用いてデータ処理ができる。 ExcelおよびWordを用いてデータ処理の結果を文章に作成できる。 データ処理の結果について、PowerPointを用いてプレゼンテーションができる。		
授業科目の貢献度							
専門科目群	基幹科目	かおりデザイン	1	1	かおりデザイン専攻の専門科目への関心や興味を喚起する導入科目であり、学生と教員および学生間の良好なコミュニケーション形成の場でもある。授業は見学会、講演会とスポーツを通じた交流などを行うとともに、にかおり・かおり分野の将来像が早い段階から描けるようキャリアガイダンスを行う。また、面談を行い、学習状況等の確認を行う。	にかおり・かおりの学習に関心、興味が抱ける。 学生と教員、学生同士の良好なコミュニケーションを形成する。 大学のさまざまな施設を有効に活用できる。 有意義な学生生活とするための目標を立てることができる。	
					授業科目の貢献度		
キャリア開発1	1	2	1年次生からの「自己発見」の取り組みが、自分のキャリア形成に極めて重要であることを実践的に学ぶ。また、自分の学生生活を自己責任において確立していく大切さを学ぶと同時に、自ら発見し、自ら語ることの重要性を学ぶ。	キャリアデザインを行なう上での基本的な考え方を説明できる。 自分自身で学生生活を創ることの大切さを説明できる。 大学で学ぶ意味を考え、目標を検討することができる。 大学での学びが、自分の将来に繋がることを理解できる。 社会生活を営む上で重要となる他者と協力し、関係を構築することの大切さを理解できる。			
授業科目の貢献度							

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
					6		14							20
					6		14							20
					6		14							20
					6		14							20
					6		14							20
0	0	0	0	0	30	0	70	0	0	0	0	0	0	100
					2		18							20
					2		18							20
					2		18							20
					2		18							20
0	0	0	0	0	10	0	90	0	0	0	0	0	0	100
					3		23							26
					3		23							26
					2		22							24
					2		22							24
0	0	0	0	0	10	0	90	0	0	0	0	0	0	100
													10	10
													20	20
													20	20
													30	30
													20	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100
													10	10
													30	30
													30	30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100
													30	30
													20	20
													20	20
													20	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標					
			必修	選択自由								
専門科目群	基幹科目	キャリア開発2	1		3	自分の個性、生き方、将来を見つめながら、次に必要な「意識と自覚」を修得する。また、自分を活かすための「自己現状分析」を行うことにより、将来を見据えた具体的計画を立案し、目標達成までのプロセスの重要性とその実行方法について学ぶと同時に、自己表現できる能力を身に付ける。	自分を知り、自分を表現できる。 他者とかかわり、関係を構築できる。 職業観を養い、表現できる。 自分の将来の目標・方向性を考え、行動計画の立案ができる。 目標に向けて能動的に行動する姿勢を持つ。					
						授業科目の貢献度						
		プロジェクト演習1	2	2	2	2	この科目は、3期に開講されるプロジェクト演習2の基礎になる科目で、学生個人で成果物を作成する力を身につけるものである。この科目では、かおりデザイン専攻で学ぶ内容に関連するテーマを設定し、学生が自分自身で問題を抽出する。資料調査・問題点抽出・提案に至るプロセスを通じて各個人の成果物を作成し発表するのに加え、発表会において問題意識をもって他の学生のプレゼンテーションを聞き、適切な質問を行うことができる力を養う。	かおりデザイン専攻の研究動向が理解できる におい・かおりの評価方法が理解できる 調査結果から問題点を抽出できる 問題点を踏まえ、新たな提案ができる 調査結果を分かりやすく発表できる 発表を聞き、適切な質問ができる				
							授業科目の貢献度					
							プロジェクト演習2	2	3	3	かおりデザイン専攻で学ぶ各分野における課題を取り上げ、それらの課題について調査し、データ整理、分析を行う。得られた結果を基にして考察した内容を発表する。	におい・かおりの測定・評価方法が理解できる におい・かおりの測定・評価の課題を理解できる 目的を明確に定め、調査計画を立てることができる 調査結果を分かりやすくまとめることができる 得られた結果を基にして考察した内容を分かりやすく説明できる。
											授業科目の貢献度	
		においの数値解析1	2	1	1	1	においの測定・評価の結果は、データとして得ることができる。においと統計学のつながりを意識しながら、データの基本的な扱い方や各統計的手法の基礎について学ぶ。	尺度の種類を正しく認識することができる。 データの代表値を正しく算出することができる。 データの分布を正しく把握することができる。 相関係数について正しく求めることができる。 母集団と標本を正しく認識することができる。				
							授業科目の貢献度					
		においの数値解析2	2	2	2	2	確率の概念を基礎として、データの推定や検定によって、より高度なデータの扱い方や読み取り方について学ぶ。また、そのような統計手法がいかにして実際のにおいの測定・評価に活かされているのかを学ぶ。	確率の性質について正しく認識する。 正規分布の性質について正しく認識する。 区間推定を正しく行うことができる。 検定を正しく行うことができる。 においの測定のいずれの場面で統計学が必要であるかを正しく認識する。				
							授業科目の貢献度					
住居学	2	1	1	1	住居の持つべき役割、住居の歴史の変遷、計画、室内環境、構造と安全、維持管理などの基礎知識を学ぶ。また、生活の中で不快に感じられているにおいの特性や対策の基本的な考え方、香りの活用、活用時の注意点などを学び、住居内での適切な香りの使用方法を修得する。	住居の役割が理解できる。 住宅・住生活の変遷が理解できる。 住環境のあり方が理解できる。 住居の適切な維持管理について理解できる。 住居内における発生原因を説明できる。 住居内での臭気対策の基本的な考え方について説明できる。 暮らしの中で適切なかおりの活用例を説明できる。						
					授業科目の貢献度							
					生活環境学1	2	1	1	快適空間を実現するためには、環境の評価、予測そして設計が必要である。本講義ではこれらを遂行する上で必要不可欠となる熱、湿気、空気の基礎を学ぶ。	室内空気汚染物質について説明できる。 室内空気質の諸問題を説明できる。 室内の空気浄化の考え方を説明できる。 換気方式の種類について説明できる。 必要換気量を求めることができる。		
									授業科目の貢献度			

学科(専攻)の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計	
													20	20	
													10	10	
													10	10	
													30	30	
													30	30	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100	
								5	5	5	5	5		25	
								10						10	
								10				10	5	10	35
													10	10	
													10	10	
0	0	0	0	0	0	0	0	5	25	5	15	10	40	100	
								20						20	
								20		5	5			30	
													10	10	
												20	10	30	
													10	10	
0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	5	5	20	30	100	
								10	10		5		5	30	
								10					5	15	
								10					5	15	
								10	10				5	25	
								10					5	15	
0	0	0	0	0	0	0	0	50	20	0	5	0	25	100	
								10					10	20	
								10					10	20	
								10					10	20	
								10					10	20	
								10					10	20	
0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	0	0	50	100	
									5		5	5		15	
												10		10	
												10		10	
								5	5					10	
								5	5			5		15	
									10		5	5		20	
								5		5	10			20	
0	0	0	0	0	0	0	0	15	25	5	20	35	0	100	
									5			15		20	
									5			15		20	
									5			15		20	
									5			15		20	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	75	0	100	

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択自由			
専門科目群	基幹科目	生活環境学2	2		2	生活環境では、においのみではなく、光・音・熱など他の要素も同時に評価されて、環境の良し悪しが判断される。本講義では、環境の物理的な測定手法や、人は環境をいかに感じるか等の内容を中心に、光・音・熱などの環境と人との関係への理解を深める。	温熱環境指標について正しく認識できる。 音の基本的特性について正しく理解できる。 光の基本的特性について正しく認識できる。 色の表し方や性質について正しく理解できる。 生活環境の心理的効果について正しく理解できる。
						授業科目の貢献度	
		かおり成分と調香1	2		1	におい物質がもつ効能効果、人間の心理や生理に与える作用、消臭作用などについて学ぶ。	基礎的な五感の原理について説明できる。 におうという現象を理解し、においに関連する化学物質の基本的構造を説明でき、さらに嗅覚メカニズムと関連づけて説明できる。 化学物質の様々な特性を理解し、におう物質とにおわない物質を説明できる。 生活空間で、多種多様なにおい物質(化学物質)が発生するメカニズムを説明できる。
						授業科目の貢献度	
		かおり成分と調香2	2		2	広く香りの特性や構造化学を学ぶ。また天然香り成分の化学を学び、天然香料の概要を理解すると共に、その製造法を学ぶ。さらに代表的な天然香料について、その特性を学ぶと共に、スニッフィング法などにより、天然香料の香味を記憶する訓練を行う。	植物性香料の香調を理解できる。 匂いの表現および分類について理解できる。 代表的な植物性香料の香り成分について理解できる。 天然香料の微量鍵香気成分について理解できる。 香り成分の化学構造と名称について理解できる。 光学活性な香料化合物について理解できる。
						授業科目の貢献度	
		嗅覚の特性	2		2	においを感じる仕組み、順応、慣れ、疲労、個人差などの嗅覚の特性、におい物質の特性について学ぶ。	においを感じる仕組みを説明できる。 順応、慣れ、疲労について説明できる。 嗅覚異常について説明できる。 におい物質について、化学物質としての物理化学的特性を説明できる。 におい物質濃度とにおいの感覚強度の関係を説明できる。
						授業科目の貢献度	
		嗅覚測定法	4		3	嗅覚測定法について学び、臭気濃度の測定方法を修得する。また、臭気強度、快・不快度、においの容認性、質などを正しく評価する方法を修得する。	嗅覚測定を行う際の注意点を説明できる。 においを評価するパネルの選定方法を説明でき、実行できる。 三点比較式臭袋法が説明でき、実行できる。 臭気濃度を算出できる。 臭気強度、快・不快度、容認性の評価方法が説明でき、実行できる。 においの質を評価する際の表現用語を挙げることができる。
						授業科目の貢献度	
心理学概論	2		3	心の様々な働きである心的過程と、それに基づく行動を探索し、心理学の基礎的な内容と実験や調査を通じた人間行動などを学ぶ。	パーソナリティという概念、それをとらえる枠組みと方法を理解できる。 欲求と動機、感情の特徴や機能を理解できる。 発達概念、発達過程の様相を理解できる。 学習・記憶の基本的メカニズムについて理解できる。 感覚と知覚の違い、および知覚機能の特徴について理解できる。		
				授業科目の貢献度			
消臭原理	2		4	消臭臭メカニズムの基礎を学ぶとともに、様々な消臭臭製品の消臭原理を学ぶ。	化学反応による臭気物質の除去メカニズムを説明できる。 臭気物質の物理的な除去メカニズムを説明できる。 微生物の作用による脱臭メカニズムを説明できる。 感覚的な消臭メカニズムを説明できる。		
				授業科目の貢献度			
展開科目		キャリア開発3	1	4	自己分析を更に展開し、社会が求めている「将来の経済を担う産業人材の確保・育成を促進するための能力」や「職場や地域社会の中で、多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎能力」を学び、今後の就職活動に向かってチャレンジする心構えを学ぶ。	社会で生きていくために、社会を知り、将来に向けて自分の人生を切り拓いていく考え方や基礎力を身につける。 職場や地域社会の中で、多様な人々と共生するために必要となる人間力を身につける。	
		授業科目の貢献度					
		キャリア開発4	1	5	キャリア開発3に続いて、社会が求めている「将来の経済を担う産業人材の確保・育成を促進するための能力」や「職場や地域社会の中で、多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎能力」を体験を通して学び、今後の就職活動に向かってチャレンジする心構えを学ぶ。	自分自身の将来像を描き、説明できる。 社会で活躍するために必要な力を理解し、身につけている。	
		授業科目の貢献度					

学科(専攻)の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計	
													20	20	
													20	20	
													20	20	
												10	10	20	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	90	0	100	
								10			10			20	
								10	5	5	5			25	
								5	10	10				25	
									10	10		10		30	
0	0	0	0	0	0	0	0	25	25	25	15	10	0	100	
												20		20	
								10			10			20	
									10	10				20	
												10		10	
0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	80	0	0	0	100	
									20					20	
									15			5		20	
									15			5		20	
									10		10			20	
									5	5	5	5		20	
0	0	0	0	0	0	0	0	65	5	15	15	0	0	100	
									10	10				20	
									15	5				20	
									15	5				20	
									10			5		15	
									10			5		15	
									10					10	
0	0	0	0	0	0	0	0	70	20	0	10	0	0	100	
												20		20	
												20		20	
												20		20	
									10			10		20	
									10			10		20	
0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	80	0	0	100	
										15	5		5	25	
										15	5		5	25	
										15	5		5	25	
										10	5	5	5	25	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	55	20	5	20	0	100	
													50	50	
													50	50	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100	
									10	10	10	10	10	20	70
													30	30	
0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	10	10	10	50	100	

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標	
			必修	選択自由				
専門科目群	展開科目	プロジェクト演習3	2		4	本授業では、かおりデザイン専攻で学ぶ各分野の研究および産業界の動向などを学び、各自が具体的なテーマを設定し、そのテーマについて調査し、調査した内容を発表する。	かおりデザインに関する研究に関連する課題を自ら抽出できる。 課題の調査、データ整理、分析を自ら実施できる。 得られた結果を基にして考察した内容を報告書にまとめ、その概要を説明できる。	
		プロジェクト演習4	2		5	本講義では、調査方法、解析方法を身につけるとともに、プレゼンテーション能力を向上させることを目的として、かおりデザイン専攻で学ぶ各分野の研究および産業界の動向などを学び、各自が具体的なテーマを設定し、そのテーマについて調査し、調査した内容を発表する。	かおりデザインに関する研究課題を複数抽出し、関連づけることができる。 課題についての高度な調査、データ整理、分析を自ら実施できる。 得られた結果を基にして考察した内容を報告書にまとめ、その内容をより高度なプレゼンテーション技術を用いて説明できる。	
		基礎製図	2		1	建築を計画、設計するのに必要な寸法計画、規模計画、動線などについての基礎的知識を学び、建築製図の基礎を学ぶ。	細線・太線・極太線の使い分けができる。 道具を適切に使用することができる。 平面図を適切に描くことができる。 屋根伏図を適切に描くことができる。 断面図を適切に描くことができる。 立面図を適切に描くことができる。	
		空間デザイン1	2		2	CADに関する基礎知識および住居設計におけるCADの役割等を学ぶとともに、CADソフトウェアの基本的な機能と操作方法を学習し、住居設計におけるCAD利用の基礎的な技術を修得する。	CADソフトの概念を理解する。 CADソフトの基本操作ができる。 CADソフトを使って簡単な図面を書くことができる。	
		空間デザイン2	2		3	人の行動範囲、家具の寸法などの基礎知識を修得し、建築やインテリア図面の基本となる平面図、断面図についてCADを使って作成する。	空間、家具の寸法を理解できる。 平面図を適切に描くことができる。 断面図を適切に描くことができる。 室内の空間に対する簡単な提案ができる。	
		空間デザイン3	2		6	「空間の設計」と「建築の形」についての演習を行い、建築空間の使い方や構造のことも意識しながら「住宅の設計」に取り組む。	ヒト、モノと生活環境の関係性を理解する。 室内空間に対する提案をするためのプレゼンテーションに必要な基礎的技術を習得している。 計画内容を図面を使用しながら説明することができる。	
		インテリア計画概論	2		4	インテリアを計画・設計する上で求められる基礎的な知識を修得する。具体的には、「空間・身体・家具・住まい・表現」の5テーマについて学ぶ。	人間の特性について要点を説明できる。 習性（行動特性）と安全な環境計画との関係について理解する。 人の動作、行為、心理的要求と空間量の関係について理解する。 子ども、高齢者、障がい者に対応した安全・快適な環境について要点を説明できる。	
		西洋建築史	2		4	西洋の建築について古代オリエント以来5000年の歴史を様式にもとづいて学ぶ。	古典系建築の特徴を説明できる。 中世系建築の特徴を説明できる。 古典系建築と中世系建築から、西洋建築史のおおよその流れを述べることができる。 各様式の相違を理解できる。 木造とは異なる、石造建築の構造的な特徴を述べることができる。	
		ランドスケープデザイン	2		5	日本各地で展開されている村おこし、まちおこし、街づくりの知見を学ぶ。	欧州諸国の都市再生の事例をいくつか説明できる。 公共交通とまちづくりの事例をいくつか説明できる。 環境の時代におけるまちづくりを説明できる。 緑とまちづくりについての事例をいくつか説明できる。 まちづくりについて自分なりの主張を述べることができる。	
		授業科目の貢献度						

学科(専攻)の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計	
								10	10	10	10	10	10	60	
													20	20	
													20	20	
0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	10	10	10	50	100	
								10	10	10	10	10	10	60	
													20	20	
													20	20	
0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	10	10	10	50	100	
													15	15	
													15	15	
												5	15	20	
												5	15	20	
												5	15	20	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	85	100	
												5	15	30	
												5	15	35	
												5	15	35	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	45	100	
												15	10	25	
												10	10	25	
												10	10	25	
												5	10	25	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	40	100	
												10	20	30	
												10	10	40	
												10	20	30	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	40	100	
								5				15	10	30	
												15	15	30	
												15		15	
												10	15	25	
0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	55	40	100	
												5	5	10	
												5	5	10	
												5	5	10	
												5	5	10	
													20	20	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	20	60	
								5				5	10	20	
												5	10	15	
												15	10	25	
												10	10	20	
													20	20	
0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	35	60	100	

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標					
			必修	選択自由								
専門科目群	展開科目	力と形		2	1	身近な材料を用いて簡単な構造模型を作ったり、実験を行ったりすることにより、力の作用と構造物の変形を体験的に学ぶ。	力の釣合いについて説明できる。					
							単純ばりの反力について説明できる。					
							トラスの仕組みと部材に働く力について説明できる。					
							はりに力が作用したときのたわみについて説明できる。					
							力のモーメントについて説明できる。					
							力の釣合いから単純な構造の反力を計算で求めることができる。					
		授業科目の貢献度										
		構造力学		2	2	2	力の釣合いを考慮だけで解くことのできる静定構造を対象とし、主に静定梁や静定ラーメンに生じる応力を具体的に計算によって求めるための解法を学ぶ。	各種支持状態とそこに生ずる支点反力を理解し、これを求めることができる。				
								骨組の安定・不安定、静定・不静定の意味を説明できる。				
								骨組に生ずる応力や変形を説明できる。				
								静定はりの曲げモーメント分布、せん断力分布を求めることができる。				
								静定ラーメンの曲げモーメント図、せん断力図、軸方向力図を作図できる。				
曲げモーメント図、せん断力図の意味やその相互関係を説明できる。												
授業科目の貢献度												
建築構造計画		2	1	1	建築を学ぶにあたって必要な基礎知識を習得すると共に、建築に必要な空間的感覚を養う。建築物に作用する荷重、外力を理解し、アーチ、軸組、壁、ブレース、トラス等の建築のしくみを理解する。	建築物に作用する荷重、外力を説明できる。						
						アーチ、軸組、壁、ブレース、トラス等の構造形式を説明できる。						
						模型製作を通じ、平面図、立面図等で建築のしくみを説明できる。						
						建築の構成を理解し、建築技術の巧みさが説明できる。						
						授業科目の貢献度						
						建築概論		2	2	2	建築の構法面を中心に建築を理解するために必要な基本的な知識を学ぶ。	建築物の構造方式の種類と構法が説明できる。
建築物に作用する荷重、外力にはどのようなものがあるか説明できる。												
木構造の基本的な説明ができる。												
鉄筋コンクリート構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造の基本的な説明ができる。												
鉄骨構造の基本的な説明ができる。												
地質調査の方法を理解し、説明できる。												
建築物の各部位の構成について説明できる。												
授業科目の貢献度												
建築材料学		2	3	3	建築材料の木、鉄、コンクリートの性質と用途および特徴について学ぶ。	コンクリート構成材料の性質を説明できる。						
						コンクリートの性質を説明できる。						
						鉄筋の性質を説明できる。						
						構造用材と非構造用材に分けて、主に構造用材として使用される木の性質を説明できる。						
						建築材料関係専門用語 300語が説明できる。						
						授業科目の貢献度						
建築生産		2	3	3	建築施工計画と工程管理および地下工事について学ぶ。	請負契約と見積りの方式について説明できる。						
						工事計画の手順について説明できる。						
						施工管理の基本的事項について説明できる。						
						工程表の種類・作成手順について説明できる。						
						仮設工事計画の基本的事項について説明できる。						
						地下工事時の調査について説明できる。						
地下工事の工法について説明できる。												
基礎・杭工事について説明できる。												
授業科目の貢献度												
建築物の維持・保全		2	6	6	建築物のライフサイクルの観点から建築物の維持保全の基本事項について学ぶ。	建物のライフサイクルの説明が出来る						
						建物の維持保全の必要性が説明出来る						
						建物の診断手法について説明できる						
						建物の改修方法について説明できる						
						授業科目の貢献度						

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
													15	15
													15	15
													15	15
													10	10
									5		5	5	15	30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5	5	85	100
													15	15
													15	15
													15	15
													20	20
													20	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100
													20	20
													20	20
									5		10	10	10	35
													25	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	10	10	75	100
												10	10	20
									10				10	20
													20	20
													10	10
													10	10
													10	10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	10	80	100
									5				15	20
													15	15
													20	20
													20	20
									5				20	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	90	100
													10	10
									5			5	10	20
									5				10	15
													10	10
													10	10
												5	10	15
													10	10
													10	10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	10	80	100
									5			5	10	20
									5			5	10	20
									5		5	10	10	30
									5		5	10	10	30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	10	30	40	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標		
			必修	選択自由					
専門科目群	展開科目	建築の法規	2	6	6	建築法規の歴史が説明できる。	建築法規の歴史が説明できる。		
						法文解釈ができる。	法文解釈ができる。		
						建築基準法の単体規定が説明できる。	建築基準法の単体規定が説明できる。		
						建築基準法の集団規定が説明できる。	建築基準法の集団規定が説明できる。		
								建築士法について説明できる。	建築士法について説明できる。
								授業科目の貢献度	授業科目の貢献度
		建築設備演習	2	6	6	6	建築設備の目的と分類を説明できる。	建築設備の目的と分類を説明できる。	
							空気調和の目的と設計目標を説明できる。	空気調和の目的と設計目標を説明できる。	
							空気調和設備の各方式の特徴を簡単に説明できる。	空気調和設備の各方式の特徴を簡単に説明できる。	
							冷暖房熱負荷の概要を説明できる。	冷暖房熱負荷の概要を説明できる。	
							給排水・衛生設備（給排水、衛生器具、消火など）および電気設備（照明、動力、変電など）についてその基礎を学ぶ。	給排水・衛生設備（給排水、衛生器具、消火）に関する重要な事項を説明できる。	
								電気設備（照明、動力、変電）に関する重要な項目を説明できる。	
						授業科目の貢献度	授業科目の貢献度		
色彩論	2	3	3	3	色彩の基礎知識を説明できる。	色彩の基礎知識を説明できる。			
					色彩効果が理解できる。	色彩効果が理解できる。			
					色彩の基礎的知識の習得とそれを日常生活やビジネスに生かす視点を身につける。	色彩の歴史が理解できる。			
						身の回りの色彩に対する考察ができる。			
						カラーマーケティングの視点が持てる。			
						授業科目の貢献度			
生活環境評価演習1	2	4	4	4	検知管を用いて室内空気汚染物質の測定ができる。	検知管を用いて室内空気汚染物質の測定ができる。			
					照度の測定ができる。	照度の測定ができる。			
					主に室内の雰囲気評価および、光環境と空気環境の測定・評価方法を学び、室内環境の測定・評価を行い、データの解析方法を習得する。	室内環境を測定し、基準値等と比較し、評価できる。			
						S D法を用いた評価ができる。			
						換気量の算出ができる。			
						授業科目の貢献度			
生活環境評価演習2	2	5	5	5	温熱環境の各要素の影響について説明ができる。	温熱環境の各要素の影響について説明ができる。			
					温熱環境の実態の評価ができる。	温熱環境の実態の評価ができる。			
					生活環境における温熱環境および音環境に着目し、生活環境における温熱環境および音環境の実態を把握すると共にそれぞれの環境評価および改善手法について学ぶ。	温熱環境の簡単な改善方法について説明できる。			
						騒音環境の人体影響について説明できる。			
						騒音環境の実態が理解でき、簡単な騒音防止対策について説明できる。			
						授業科目の貢献度			
生活環境評価演習3	4	6	6	6	心理評価ができる。	心理評価ができる。			
					鎮静効果・興奮効果を測定できる。	鎮静効果・興奮効果を測定できる。			
					疲労度の測定ができる。	疲労度の測定ができる。			
					ストレスに関係する生体計測について理解できる。	ストレスに関係する生体計測について理解できる。			
						授業科目の貢献度			
						授業科目の貢献度			
食品とかおり	2	3	3	3	フレーバーの素材について説明できる。	フレーバーの素材について説明できる。			
					味と香りの関係について理解できる。	味と香りの関係について理解できる。			
					香料の食品への利用について説明できる。	香料の食品への利用について説明できる。			
					食品において香りが果たす役割について説明できる。	食品において香りが果たす役割について説明できる。			
						授業科目の貢献度	授業科目の貢献度		
かおり成分と調香3	2	3	3	3	代表的合成香料について香りを記憶し理解できる。	代表的合成香料について香りを記憶し理解できる。			
					調合香料の構成および香りのタイプについて理解できる。	調合香料の構成および香りのタイプについて理解できる。			
					調合香料の利用について理解できる。	調合香料の利用について理解できる。			
					香料の機能性について理解できる。	香料の機能性について理解できる。			
					香料の安全性に関する法律について理解できる。	香料の安全性に関する法律について理解できる。			
					香料 GMP について理解できる。	香料 GMP について理解できる。			
						授業科目の貢献度	授業科目の貢献度		

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
												10	10	20
												5	20	25
												5	15	20
												5	15	20
												5	10	15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	70	100
												20		20
									10			5	10	25
									10			5	10	25
												10		10
												10		10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	10	70	0	100
												10		10
												10		20
												25		25
												20		20
												15	10	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	75	0	100
												5		20
												20		20
												20		20
												5	15	20
												5	15	20
0	0	0	0	0	0	0	0	5	10	0	0	85	0	100
												20		20
												20		20
												20		20
												10	10	20
												10	10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	80	0	100
												10		25
												5	5	25
												5	10	25
												5	10	25
0	0	0	0	0	0	0	0	25	5	0	45	25	0	100
												5	15	20
												15	5	25
												10	10	25
												10	5	10
0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	35	20	15	0	100
												15		15
												15		15
												10	10	20
												5	10	15
												10	5	15
												10		10
0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	70	25	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標	
			必修	選択自由				
専門科目群	展開科目	かおり成分と調香4	2	4	4	調香技術を取得し、香料の品質確保と安全性についての知識を取得する。	香料の取り扱いの仕方を説明できる。	
							一般的香料素材の特性を説明できる。	
							基本的な香りを嗅ぎ分けることができる。	
							基本的香りアコードのとり方を説明できる。	
								調香の基本的考え方を説明できる。
								授業科目の貢献度
		におい・かおり測定演習1	4	4	4	4	においセンサー、におい識別装置、検知管の使用方法を学び、においの測定法を修得する。	においの機器測定の本所と短所が理解できる。
								においの測定において適切な機器の選定ができる。
								においセンサーが正しく使用できる。
								におい測定装置の内容を理解し、使用できる。
								検知管を用いて臭気物質濃度の測定ができる。
								授業科目の貢献度
におい・かおり測定演習2	4	4	5	5	悪臭防止法で定められている特定悪臭物質の分析方法を学ぶ。また、ガスクロマトグラフ、吸光度計の測定原理を学ぶ。	ガスクロマトグラフの原理が理解できる。		
						吸光度計の原理が理解できる。		
						ガスクロマトグラフの使用法が理解できる。		
						吸光度計の使用法が理解できる。		
						大気試料の前処理法が理解できる。		
						測定物質ごとの分析方法の違いが理解できる。		
授業科目の貢献度								
におい・かおり測定演習3	4	6	6	6	ガスクロマトグラフ質量分析計、高速液体クロマトグラフ、におい嗅ぎガスクロマトグラフ等を用いて様々なにおい成分の分析方法を学ぶ。	ガスクロマトグラフ質量分析計の原理が理解できる。		
						高速液体クロマトグラフの原理が理解できる。		
						におい嗅ぎガスクロマトグラフの原理が理解できる。		
						各化学分析機器に適した用途が理解できる。		
						授業科目の貢献度		
感覚生理・心理	2	4	4	4	人が外界から情報を得て感覚・知覚が成立し、行動に至るまでの過程について学ぶ。	心理評価のデータ処理を理解できる。		
						眼球運動と心理の関係が理解できる。		
						色彩の心理効果が理解できる。		
						聴覚刺激の物理量と心理量の関係が理解できる。		
						味覚と心理の関係について理解できる。		
						感覚的な情報の時間的要素と心理の関係が理解できる。		
授業科目の貢献度								
アロマテラピー演習	2	6	6	6	実際に精油の香りを嗅いで体験し、精油の抽出方法や歴史、精油を選択する際の情報として効能や禁忌について正しい知識を身に付ける。	アロマテラピーの意味を説明できる。		
						アロマテラピーの歴史を説明できる。		
						アロマテラピーの注意点が理解できる。		
						アロマオイルの効能が理解できる。		
						授業科目の貢献度		
脱臭性能評価演習	2	5	5	5	様々な消臭製品の性能を評価する方法を学び、演習を通して、その除去率の算出方法を取得する。	空気清浄機の脱臭性能評価方法について理解できる。		
						芳香剤の効果の評価方法について理解できる。		
						消臭剤の効果の評価方法が理解できる。		
						消臭製品の脱臭性能を評価できる。		
						脱臭効率の計算ができる。		
						授業科目の貢献度		
悪臭防止法	2	5	5	5	規制地域、規制値の決定、測定データの解釈、法を用いて行えるパフォーマンスの限界、現実問題との接点など実例を学ぶことによって法規制の実態を学ぶ。	悪臭防止法が制定された理由(背景)を説明できる		
						悪臭防止法の各条文の意味するところを理解できる		
						規制地域及び規制値について理解できる		
						臭気判定士の役割を理解できる		
						特定悪臭物質規制(機器分析法)と臭気指数規制(嗅覚測定法)を理解できる		
						代表的な脱臭技術を理解できる		
						授業科目の貢献度		

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
										20				20
								5		10				15
								5		10				15
										10	10			20
								10		10	10			30
0	0	0	0	0	0	0	0	15	5	60	20	0	0	100
								15	5					20
								15	5					20
								15	5					20
								15	5					20
								10	5			5		20
0	0	0	0	0	0	0	0	70	25	0	0	5	0	100
								20						20
								10						10
								15						15
								10						10
								15						15
								15	10	5				30
0	0	0	0	0	0	0	0	85	10	5	0	0	0	100
								25						25
								25						25
								25						25
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
								5			15			20
											15			15
											15			15
								5			15			20
											15			15
0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	90	0	0	100
										10	10	5		25
										15	10			25
										15	10			25
										10	10	5		25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	40	10	0	100
								10	10					20
								10	10					20
								10	10					20
								5	10			10		25
								5	10					15
0	0	0	0	0	0	0	0	40	50	0	0	10	0	100
									10			10		20
									10					10
									10			5		15
								5	10					15
								5	10		5			20
									20					20
0	0	0	0	0	0	0	0	10	70	0	5	15	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標
			必修	選択自由			
専門科目群	展開科目	インターンシップ (学外研修)	2		集中	企業におけるインターンシップを行う。	実習先企業の業務を理解し、におい・かおり業界での位置づけを説明できる。
							実務で発生する問題点と解決策の一例を説明できる。
							机上の知識と現実の問題との格差を説明できる。
							将来の進路に対する自分の考え方を述べることができる。
							授業科目の貢献度
	卒業研究	セミナー1	2		6	卒業研究と平行して行われる授業である。そのため、授業は卒業研究の研究室単位で行われる。卒業研究では各指導教員の下で研究論文をまとめることになるが、セミナー1では、その基礎となる理論・学説や研究方法などについて授業が行われる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究の基礎となる理論・学説をより深く理解できる。
							卒業研究の研究方法をより深く理解できる。
							授業科目の貢献度
							卒業研究に関する理論・学説を理解できる。
	卒業研究	セミナー2	2		7	セミナー1と同様、卒業研究と平行して行われる授業である。そのため、授業は卒業研究の研究室単位で行われる。卒業研究では各指導教員の下で研究論文をまとめることになるが、セミナー3でもその基礎となる理論・学説や研究方法などについて授業が行われる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究のまとめ方を理解できる。
							卒業研究の内容について論理的に発表できる。
							研究成果を根拠を基にわかりやすく表現できる。
授業科目の貢献度							
卒業研究	セミナー3	2		8	セミナー2と同様、卒業研究と平行して行われる授業である。そのため、授業は卒業研究の研究室単位で行われる。卒業研究では各指導教員の下で研究論文をまとめることになるが、セミナー3では、卒業論文についての研究成果発表が中心となる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究に関する理論・学説を理解できる。	
						卒業研究のまとめ方を理解できる。	
						卒業論文を作成する。	
						授業科目の貢献度	
卒業研究	卒業研究	6		7・8	卒業研究は、これまでの授業を通して知り得た総合情報学の各研究分野の中から、最も興味のある分野を選択し、教員の指導を受けながら研究論文を作成する。	卒業論文を作成する。	
						卒業論文を作成する。	
						卒業論文を作成する。	
						授業科目の貢献度	

学科(専攻)の学位授与の方針														
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	合計
													25	25
													25	25
													25	25
													25	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100
													50	50
													50	50
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100
													50	50
													50	50
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100
													50	50
													50	50
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100
													10	10
													10	10
													80	80
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100

■ 建築学科

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分	授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考					
		必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次							
					1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期						
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・ 세미나	1			2	[2]											
		基礎英語 세미나			1	2	[2]											
		資格英語 1	1			2	[2]											
		資格英語 2	1				2	[2]										
		英語スキル 1	1			2	[2]											
		英語スキル 2	1				2	[2]										
		英語スキル 3	1					2	[2]									
		英語スキル 4	1						2	[2]								
		実践英語 1		1							2							
		実践英語 2		1								2						
		中国語入門 1			1		2											
		中国語入門 2			1			2										
		健康科学演習 A	1				2											
		健康科学演習 B	1					2										
	Bグループ	人間・歴史文化・こころの理解	日本文学 A		2				2		2							
			日本文学 B		2						2		2					
			外国文学 A		2			2		2		2						
			外国文学 B		2				2		2		2					
			哲学 A		2			2		2		2						
			哲学 B		2				2		2		2					
			文化人類学 A		2				2		2		2					
			文化人類学 B		2					2		2		2				
			歴史学 A		2			2		2		2		2				
			歴史学 B		2				2		2		2		2			
			心理学 A		2			2		2		2		2				
			心理学 B		2				2		2		2		2			
			教育原理		2			2										
			教育心理学		2					2								
		国際情勢と社会のしくみ	政治学 A		2			2		2		2						
			政治学 B		2				2		2		2					
経済学 A			2			2		2		2								
経済学 B			2				2		2		2							
法学 A			2					2		2								
法学 B			2						2		2							
社会学 A			2			2		2		2								
社会学 B			2				2		2		2							
社会調査の方法 A			2					2		2		2						
社会調査の方法 B			2						2		2		2					
現代社会論 A			2					2		2								
現代社会論 B			2						2		2							
教育社会学		2				2												
科学的なものの見方と環境問題	健康科学 A		2			2		2		2								
	健康科学 B		2				2		2		2							
	認知科学 A		2					2		2								
	認知科学 B		2						2		2							
	環境科学 A		2					2		2								
	環境科学 B		2						2		2							
	自然科学概論 A		2			2		2		2								
	自然科学概論 B		2				2		2		2							
	生物学 A		2					2		2		2						
	生物学 B		2						2		2		2					
	地球科学 A		2						2		2							
	地球科学 B		2							2		2						

(次ページにつづく)

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分			授業科目			単位数			毎週授業時間数								備考
									1年次		2年次		3年次		4年次		
						必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	
人間科学科目群	Bグループ	学問への複眼的アプローチ	リベラルアーツ特別講義	2			◎									集中	
			リベラルアーツ実践演習A	2					2		2						
			リベラルアーツ実践演習B	2						2		2					
			教養総合講座A	2						2		2					
			教養総合講座B	2							2		2				
合計			9	90	3	32	28 [8]	44 [4]	42 [2]	42 [2]	42						

(注) 1. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。

区分	授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考		
					1年次		2年次		3年次		4年次				
		必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期			
専門基礎科目群	自然科学系	基礎数学セミナー			1	2	[2]								履修者指定
		基礎理科セミナー			1	2	[2]								
		線形代数 1		2		2									
		線形代数 2		2			2								
		基礎物理 A		2			2								
		基礎物理 B		2					2						
		現代物理学 1			2				2						
		現代物理学 2			2					2					
		化学基礎 1		2		2									
		化学基礎 2		2			2								
	工学基礎系	数学基礎		2		2	(2)								
		解析学 1		2		2	(2)								
		解析学 2		2			2		(2)						
解析学 3			2				2	(2)							
常微分方程式			2					2	(2)						
情報系	力学 1		2		2	[2]									
	力学 2		2			2									
	力学 3		2				2								
情報系	情報処理 1	2			2										
	情報処理 2		2			2									
小計		2	30	6	16	12 (4) [6]	8 (2)	4 (2)	(2)						
			38												
専門科目群	基幹科目	かおりデザイン入門セミナー	1			2									
		キャリア開発 1	1				2								
		キャリア開発 2	1						2						
		プロジェクト演習 1	2					2							
		プロジェクト演習 2	2						2						
		数値解析 1		2		2									
		数値解析 2		2		2									
		住居学		2		2									
		生活環境学 1	2			2									
		生活環境学 2	2			2									
		かおり成分と調香 1	2			2									
		かおり成分と調香 2		2				2							
		嗅覚の特性	2					2							
		嗅覚測定法	4						4						
		心理学概論		2					2						
		消臭臭原理		2						2					

(次ページにつづく)

区分	授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考					
		必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次							
					1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期						
専門科目群	キャリア開発3		1					2										
	キャリア開発4		1						2									
	プロジェクト演習3	2						2										
	プロジェクト演習4	2								2								
	基礎製図		2		2													
	空間デザイン1		2			2												
	空間デザイン2		2				2											
	空間デザイン3		2								2							
	インテリア計画概論		2					2										
	西洋建築史		2					2										
	ランドスケープデザイン		2							2								
	力と形		2		2													
	構造力学		2				2											
	建築構造計画		2		2													
	建築概論		2				2											
	建築材料学		2				2											
	建築生産		2				2											
	建築物の維持・保全		2									2						
	建築の法規		2									2						
	建築設備演習		2									2						
	色彩論		2					2										
	生活環境評価演習1		2						2									
	生活環境評価演習2		2							2								
	生活環境評価演習3		4								4							
	食品とかおり		2					2										
	かおり成分と調香3		2					2										
	かおり成分と調香4		2						2									
	におい・かおり測定演習1	4						4										
	におい・かおり測定演習2		4							4								
	におい・かおり測定演習3		4								4							
	感覚生理・心理		2						2									
	アロマテラピー演習		2								2							
	脱臭性能評価演習		2								2							
	悪臭防止法		2								2							
	インターンシップ(学外研修)		2									◎						集中
	卒業研究	セミナー1	2									2						
		セミナー2	2										2					
		セミナー3	2											2				
		卒業研究	6										◎	◎				
	小計		39	80	0	16	18	22	20	16	20	2	2					
					119													
自由科目	幾何学1			2					2									
	幾何学2			2						2								
	数理統計学1			2						2								
	数理統計学2			2							2							
	応用解析1			2			2											
	応用解析2			2				2										
	応用解析3			2								2						
	応用解析4			2									2					
	線形代数3			2									2					
	代数系入門			2										2				
	工学概論			2							2							
	職業指導1			2								2						
	職業指導2			2										2				
	小計				26			2	2	6	4	6	6					
合計		41	110	32	32	30(4)	32(2)	26(2)	22(2)	24	8	8						
				183														

(注) 1. 毎週授業時間数の()は、同一科目を複数期に開講することを示す。
 2. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。
 3. 「卒業研究」の単位認定は、8期とする。

本学を卒業するために必要な単位数は124単位とし、各学部学科の定める卒業要件は、別に定める。
4年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に対し学長は卒業を認定する。

卒業研究履修・卒業基準

学科共通

【卒業研究履修基準】

卒業研究を履修できる条件は次のとおりです。

学年		必要な単位数(注1)	必要な科目(注2)	
21 生	建築学科 建築専攻	卒業要件として認められる単位のうち、100単位以上修得すること。	建築・インテリア入門セミナー	
	建築学科 インテリアデザイン専攻		基礎英語セミナー 基礎数学セミナー 基礎理科セミナー	
	建築学科 土木・環境専攻	土木・環境入門セミナー		
	建築学科 かおりデザイン専攻	卒業要件として認められる単位のうち、100単位以上修得すること。		かおりデザイン入門セミナー

注1) 人間科学科目群の科目については、必修科目と選択科目を合計して27単位を超えることができません。

注2) 基礎英語セミナー、基礎数学セミナー、基礎理科セミナーの3科目については、**卒業研究履修基準の必要単位数**

(建築専攻:100単位、インテリアデザイン専攻:100単位、土木・環境専攻:104単位、かおりデザイン専攻:100単位)

には含まれませんが、合格していることが必要です。

<不合格者>4年次生に進級しますが、卒業研究は履修できません。

【卒業要件】

卒業に必要な要件は次のとおりです。

学年	学科・専攻名	科目群	必要単位数	
21 生	建築学科 各専攻	人間科学科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目9単位を含め27単位 (2)人間・歴史文化・こころの理解から2単位以上 (3)国際情勢と社会のしくみから2単位以上 (4)科学的なものの見方と環境問題から2単位以上	
		専門基礎科目群	必修科目6単位を含め12単位以上	
	建築学科 建築専攻	専門科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目52単位 (2)「構造・材料実験」「建築測量学同実習」の2科目から2単位 (3)「建築生産1」「建築生産2」の2科目から2単位	
		専門基礎科目群	必修科目6単位を含め12単位以上	
	建築学科 インテリアデザイン専攻	専門科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目52単位 (2)「構造・材料実験」「建築測量学同実習」の2科目から2単位 (3)「建築生産1」「建築生産2」の2科目から2単位	
		専門基礎科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目4単位を含め20単位以上 (2)「化学1」「力学1」の2科目から2単位 (3)「基礎情報処理A」「基礎情報処理B」の2科目から2単位	
	建築学科 土木・環境専攻	専門基礎科目群	必修科目36単位	
		専門科目群	必修科目36単位	
	建築学科 かおりデザイン専攻	専門基礎科目群	必修科目2単位	
		専門科目群	必修科目39単位	

<不合格者>次年度の前期で卒業資格を充足すれば前期末で卒業となります。

他学部・他学科および学科内他専攻履修

学科共通

【他学部・他学科履修】

情報学部および工学部の各学科の専門基礎科目群・専門科目群の単位を修得した場合、修得した単位は、「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。但し、工学部の各学科の専門基礎科目群・自然科学系および工学基礎系の同一科目名称科目は除く。

(次ページにつづく)

【学科内他専攻履修】

開講科目一覧表における、自専攻に開講していない他専攻科目の単位を修得した場合の取り扱いとは下記のとおりです。

所属学科・専攻名	同一学科内の他の専攻の開講する授業科目の各取扱		
	履修する専攻	履修の取り扱い	修得単位の取扱
建築学科 建築専攻	インテリアデザイン専攻	授業科目の区分は選択科目とする。	12単位を上限として、「卒業に必要な単位数」に算入することができる。
	土木・環境専攻	授業科目の区分は自由科目とする。	「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。
	かおりデザイン専攻		
建築学科 インテリアデザイン専攻	建築専攻	授業科目の区分は選択科目とする。	12単位を上限として、「卒業に必要な単位数」に算入することができる。
	土木・環境専攻	授業科目の区分は自由科目とする。	「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。
	かおりデザイン専攻		
建築学科 土木・環境専攻	インテリアデザイン専攻	授業科目の区分は自由科目とする。	「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。
	建築専攻		
	かおりデザイン専攻		
建築学科 かおりデザイン専攻	インテリアデザイン専攻	授業科目の区分は自由科目とする。	「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。
	建築専攻		
	土木・環境専攻		

先修条件について

学科共通

カリキュラムを体系的、段階的に進めるために、授業科目によっては履修申請に際して、必要な要件(「先修条件」)がつく科目があります。下記の科目については、先修条件科目の単位の修得が条件になっていますので、先修条件の科目の単位を修得しないと履修申請することができませんので、注意してください。

学年	学科・専攻	区分	先修条件を設定している科目			先修条件科目		
			科目名	期	必選	科目名	期	必選
21 生	建築学科 建築専攻 インテリアデザイン専攻 かおりデザイン専攻	専門基礎科目群	力学2	2	選	力学1	1[2]	選
			力学3	3	選	力学2	2	選
		専門基礎科目群	力学2	2	選	力学1	1[2]	選
	力学3		3	選	力学2	2	選	
	CAD 演習 1		3	選	「基礎情報処理 A」または「基礎情報処理 B」	1.2	選	
	CAD 演習 2		4	選	CAD 演習 1	3	選	
	応用数学		4	選	「基礎情報処理 A」または「基礎情報処理 B」	1.2	選	
	GIS基礎		5	選	「基礎情報処理 A」または「基礎情報処理 B」	1.2	選	
					CAD 演習 1	3	選	
	GIS演習		6	選	GIS基礎	5	選	
	専門科目群	VR 演習	6	選	CAD 演習 2	4	選	
		応用情報処理	5	選	「基礎情報処理 A」または「基礎情報処理 B」	1.2	選	
		地盤工学 2	3	必	基礎数学 세미나	1[2]	自	
					基礎理科セミナー	1[2]	自	
		流れ学 1	3	必	基礎数学 세미나	1[2]	自	
					基礎理科セミナー	1[2]	自	
		構造解析学	3	選	土木構造力学	2	必	
	まちづくりデザイン実習	5	選	地域・都市計画	4	選		
輸送システム	4	選	交通計画	3	選			